

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

第1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
(ア) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	2
(イ) 地域・社会的動向等の現状把握	2
(ウ) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	3
(エ) 学生確保の見通し	4
A. 学生確保の見通しの調査結果	
① 本学在学生(学部生)に対するアンケート調査(資料1)	5
② 本学在学生(大学院生)に対するアンケート調査(資料5-1・5-2)	6
③ 企業・商社等(社会人共通)に対するアンケート調査(資料13)	9
④ 海外協定校及び共同研究関連校等に対するアンケート調査(資料17)	9
B. 新設学部等の分野の動向(参考1参照)	10
C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等	10
D. 競合校の状況(参考1参照)	11
E. 既設学部等の学生確保の状況	11
F. その他、申請者において検討・分析した事項	12
(オ) 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果	13
第2 人材需要の動向等社会の要請	14
1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	14
2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	14
① 県内企業・商社等に対するアンケート調査(資料17)	15

第1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1 学生の確保の見通し

(ア) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は、令和4年度にグローカル文化学専攻、生産システム科学専攻、およびヘルスケアシステム科学専攻の3専攻から構成される大学院サステイナブルシステム科学研究科（修士課程）を設置しており、今回の申請は、令和6年度に博士後期課程を設置し、それに伴い修士課程を博士前期課程に名称変更するために行う。

令和4年度に開設した大学院グローカル文化学専攻（修士課程）の初年度の入学者は、入学定員3人のところ、入学者が3人であった（定員充足率100%）。この3人の内訳は、他大学からの進学生1人、社会人入学生1人、外国人留学生1人であった。

令和5年度のグローカル文化学専攻の入学生については、現時点で現在外国人留学生1人が合格し入学する予定である。また、今年度は引き続き、2023年3月に行われる第2次募集の試験を行い、外国人留学生を含めた入学生受入れを予定している。

地域と世界の持続性に係る課題解決に向けて先導的な役割をはたすことをミッションとする大学院構想において、その際、持続性に係る諸課題の解決に至るためにには、より高度な専門性を有する人材育成を行うため、博士後期課程における教育研究が必須であり、その基盤となる修士課程における2年目の学生確保を現在進めている。

(イ) 地域・社会的動向等の現状把握

本学が立地する小松市の特色を概観すると、まず世界有数の企業である株式会社コマツをはじめとする「ものづくり」産業の一大集積地であり、産業機械から繊維、電子機器まで幅広い多様なもののづくり企業が存在している。また、全国的に人口は減少、高齢者の人口比率が高まり、現役担い手世代が急減している中、小松市は、全国介護・高齢化対応度調査（令和2年）で815市区中、日本一（『日経グローカル』令和2年10月）と評価され、高齢者健康福祉のモデル地域となっている。また、小松空港に加え、北陸新幹線の敦賀延伸により広域交流のための基盤が拡充し、有形無形の地域資源や観光、異文化理解、情報発信のニーズが高まっている。

小松市は、令和4年3月に「小松市SDGs未来都市計画」を策定している、その計画では、「国際系、工学系、医療系の三学問領域を有する公立小松大学が、SDGsの精神に合致した教育研究を実施し、ふるさと小松と世界で活躍し、かつ指導的役割を果たす高度専門人材を育成する」ことに強い期待が示された。

また、中央教育審議会は平成30年11月26日、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において「地域との連携」の重要性を謳い、「公立大学の役割」として「それぞれの地域における社会・経済・文化の向上発展への貢献から国際社会への貢献まで幅広

く含め、様々な教育・研究・社会貢献機能のより一層の強化が求められる。」と明記している。

(ウ) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

- ・(ア)や(イ)で分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか

グローカル文化学の分野においては、地域山間部の限界集落の地域活性化や土地固有の歴史的・文化的資源の発掘と情報発信のニーズが高まっている。また、持続的発展のための地域・国際間パートナーシップの強化が求められる。このことを踏まえて、本研究科博士後期課程においては、以下のカリキュラム・ポリシーを設定し、グローカル文化学の高度な専門能力を備えた研究者・教育者・組織指導者を養成する。

- 國際文化という観点から、人類の持続的発展のための諸課題を明らかにし、言語文化学、觀光学、政治・経済学といった専門分野において、それら課題の解決と社会実装に向けての能力を育成する。
- 持続的可能性を視点に新しい文明価値の創出につながる地域的・地球的課題解決のための研究力を養い、固有な学問領域を超えて、柔軟でかつ高度専門知の総合的運用能力を育成する。
- 人文科学・社会科学に固有な学問領域の高度専門能力の涵養を図り、他分野の専門家と協働して課題解決にあたる能力と実践を備えた研究者を育成する。
- 地域・国際社会で活躍できる資質を涵養するために、本学が立脚する南加賀および北陸と国際社会に関する諸課題を発見し、解決に必要な能力と技術を備え、その成果を南加賀および北陸の地域創生に役立てる力を修得する。

・定員設定の理由

本学において、地域のニーズを踏まえて、令和4年度に修士課程を設置したサステイナブルシステム科学研究科において募集状況は良好であるが、接続する博士後期課程の設置にあたっては、産業、行政、保健医療福祉などの分野で持続可能性に向けた課題の発見と解決を担う高度専門人、教育研究者、組織の指導者の育成をめざすことから、修士課程のグローカル文化学専攻の入学定員が3人に対し、博士後期課程の入学定員は、1人という少人数で設定した。

・今、専攻を新設しなければいけない理由

地域と世界の持続性に係る課題解決に向けて先導的な役割をはたすことをミッションとする大学院構想として、本研究科が目標とするサステイナビリティは、人類の将来にわたり追求するものである。国連が定めた2030年までの行動計画（SDGs）以降も幾世代にもわたって地域と世界の持続性に貢献するためには、創造性と指導力に富み、社会実装を含む具体的な課題解決能力を備えた高度専門人材を養成する博士後期課程の設置が必須である。

この考えに一致し、グローカル文化学専攻においては、地域・国際社会で活躍できる高

度専門能力を有する人材が必要とされていることが企業へのアンケート調査（資料 17）でも明らかになっている。

- ・新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

本学の授業料及び入学期料は、国立大学の標準額に準じて設定しており、現在の本学部及び大学院修士課程と同額である。入学期料については市内者を282,000円、市外者を423,000円と設定している。（市内者とは、入学者本人又は保護者が、入学前年の4月1日以前から引き続き小松市内に住所を有している者である。）また、学業優秀で家庭の経済事情等により授業料の納付が困難であるなどの一定の要件を満たした学生に対して、授業料および入学金を減免する制度を設けており、学生の経済的な負担についての配慮を行っている。

[表1) [本学と近隣の他大学の学生納付金一覧]

大学院名	研究科名	入学金	授業料
公立小松大学大学院	サステイナブルシステム 科学研究科	(市内) 282,000 円 (市外) 423,000 円	585,800 円
金沢大学大学院	自然科学研究科 医薬保健学総合研究科 人間社会環境研究科	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	(県内) 282,000円 (県外) 423,000円	535,800 円

（エ）学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

入学意向

本学大学院（博士後期課程）のサステイナブルシステム科学研究科では、実践的な教育・研究を実施することから、少人数での教育が主であると考え、グローバル文化学専攻の入学定員を1人とする。この定員設定については、教育方法や環境に加えて、競合他大学院の動向、大学生、大学院生、及び企業・団体等を対象としたアンケート調査の結果、社会的な需要などを踏まえて設定しているので、定員充足に問題がないと判断している。

本学大学院の入学定員を設定するにあたって、入学希望の状況等を把握するため、本学学部生（1～4年）及び大学院生（修士課程1年）、石川県内の企業、商社等に勤める従業員を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」を実施した（資料1・資料5-1・資料9）。大学院生（修士課程）については、令和5年6月に大学

院生（修士課程）1・2年生を対象に再度調査を実施した。（資料5-2）また、本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査を実施した（資料13）。さらに、中長期的な学生確保の見通しを得るため、県内の本学大学院に類似する近隣大学における大学院博士後期課程へ入学状況、大学内部の進学率について調査を行った（参考1）。

【公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート実施概要】

<進学意向調査（本学の国際文化交流学部生）>（資料1）

調査対象：公立小松大学の全学生（国際文化交流学部1～4年、全322人）

実施時期：令和4年11月

回答状況：46人（回答率：14%）

<進学意向調査（本学の大学院生）>（資料5-1）（1回目）

調査対象：公立小松大学の大学院生

（グローカル文化学専攻 修士課程1年、全3人）

実施時期：令和4年11月

回答状況：3人（回答率：100%）

<進学意向調査（本学の大学院生）>（資料5-2）（2回目）

調査対象：公立小松大学の大学院生

（グローカル文化学専攻 修士課程1・2年、全5人）

実施時期：令和5年6月

回答状況：4人（回答率：80%）

<入学意向調査（石川県内企業、商社等）>（資料9）

調査対象：石川県内企業、商社等に勤務する従業員（82企業、商社）

実施時期：令和4年12月

回答状況：10人（回答率：12%）

<入学意向調査（海外協定校及び共同研究関連校等）>（資料13）

調査対象：海外協定校及び共同研究関連校等

実施時期：令和4年12月

回答状況：3校

①本学对学生に対するアンケート調査（資料1）

本学大学院（博士後期課程）の入学定員を設定するにあたり、大学院（博士後期課程）が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、本学国際文化交流学部1～4年生を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート」を実施した。

（調査結果）

本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻への興味・関心を尋ねる設問（問6）にお

いて、回答者(14人)のうち、「大いに興味・関心がある」が2人(14%)、「興味・関心がある」が2人(14%)、「少し興味・関心がある」が5人(36%)と、計9人(64%)が興味・関心を示している。そのうち、グローカル文化学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると(問10)、入学定員1人に対し、3人の回答者のうち「入学したい」が1人(33.3%)、「条件が整えば入学したい」が1人(33.3%)、「将来必要があれば入学を検討したい」が1人(33.3%)であり、入学定員を満たす入学希望者があった。なお、長期的な需要を調査するため、一旦就職した後の大学院(博士後期課程)進学希望について尋ねた設問(問5)において、「5年以内の進学を希望する」との回答が3人(4年生2人、3年生1人)、「機会があれば進学を希望する」との回答が3人、「就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する」との回答が5人、「仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する」との回答が2人という結果であった。将来的にも大学院(博士後期課程)の進学に前向きであることが確認できた。問7において本学大学院(博士後期課程)について興味・関心があると回答した方(9人)に、興味・関心がある理由を尋ねると、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が7件と最も多く、次いで「新しい視点からの研究ができそうだから」が6件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。

(資料1抜粋)

調査学科	国際文化交流学科
希望先	グローカル文化学専攻
興味・関心	9人
受験を希望する	3人
入学したい	1人
条件が整えば入学したい	1人
将来必要があれば入学を検討したい	1人
入学定員	1人

②本学大学院修士課程の学生に対するアンケート調査（資料5-1）

本学大学院(博士後期課程)の入学定員を設定するにあたり、大学院(博士後期課程)が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、グローカル文化学専攻の本学大学院生(修士課程)1年生を対象に「公立小松大学大学院(博士後期課程)設置に関するアンケート」を実施した。

(調査結果)

本学大学院（博士後期課程）への興味・関心を尋ねる設問(問6)において、回答者（2人）のうち、「興味・関心がある」が1人(50%)、「少し興味・関心がある」が1人(50%)と、計 2人(100%)が興味・関心を示している。そのうち、グローカル文化学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると(問9)、入学定員1人に対し「入学したい」、「条件が整えば入学したい」、「将来必要があれば入学を検討したい」という回答が無かった。なお、長期的な需要を調査するため、一旦就職した後の大学院（博士後期課程）進学希望について尋ねた設問(問5)において、「5年以内の進学を希望する」との回答が1人、「機会があれば進学を希望する」との回答が1人という結果であった。「入学したい」はいないが、「5年以内の進学を希望する」等、将来的に大学院（博士後期課程）へ進学する可能性のある在学院生がいるものと考える。また、問7において本学大学院（博士後期課程）について興味・関心があると回答した方（2人）に、興味・関心がある理由を尋ねると、「新しい視点からの研究ができそうだから」が2件、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が1件、「大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから」が1件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。

(資料5-1 抜粋)

調査学科	グローカル文化学専攻
希望先	グローカル文化学専攻
興味・関心	2人
受験を希望する	0人
入学したい	0人
条件が整えば入学したい	0人
将来必要があれば入学を検討したい	0人
入学定員	1人

本学大学院修士課程の学生に対するアンケート再調査（資料5-2）

本学大学院（博士後期課程）の入学定員を設定するにあたり、大学院（博士後期課程）が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、グローカル文化学専攻の本学大学院生（修士課程）1年生を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート」を実施したが、令和5年度に1年生も入学し、令和6年度より博士前期・後期課程の学生に対する修学支援制度が新たに設けられる予定であるため、修学支援制度の説明も加え、

あらためて大学院生（修士課程）1・2年生を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート」を実施した。

（再調査結果）

本学大学院（博士後期課程）への興味・関心を尋ねる設問（問6）において、回答者（4人）のうち、「大いに興味・関心がある」が2人（50%）、「興味・関心がある」が1人（25%）、「少し興味・関心がある」が1人（25%）と、計4人（100%）が興味・関心を示している。そのうち、グローカル文化学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると（問9）、入学定員1人に対し「入学したい」が2人（50%）、「将来必要があれば入学を検討したい」が2人（50%）であり、入学定員を満たす希望者があった。なお、長期的な需要を調査するため、一旦就職した後の大学院（博士後期課程）進学希望について尋ねた設問（問5）において、「仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する」との回答が2人という結果であった。将来的に大学院（博士後期課程）へ進学する可能性のある在学院生がいるものと考える。また、問7において本学大学院（博士後期課程）について興味・関心があると回答した方（4人）に、興味・関心がある理由を尋ねると、「新しい視点からの研究ができるから」が3件、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が1件、「大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから」が2件、「学位（博士）を取得するため」が2件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。

また、自由記述欄には、「経済的支援があるので、安心して入学できます。」「現在、行っている研究をさらに深め、関連する他の問題についても探求するため、博士後期課程に進学したいです。」「負担軽減を目的に忙しい社会人学生でも3年間で確実に修了でき、通学機会ができるだけ減らしたカリキュラムの構築。博士後期課程修了後の就職支援（社会人学生を除く）。」といった、修学支援制度の充実を歓迎する意見や、大学院（博士後期課程）設置を期待する意見や要望があった。

再調査（大学院生）

（資料5-2 抜粋）

調査学科	グローカル文化学専攻
希望先	グローカル文化学専攻
興味・関心	4人
受験を希望する	4人
入学したい	2人
条件が整えば入学したい	0人
将来必要があれば入学を検討したい	2人
入学定員	1人

③石川県内企業、商社等に勤める従業員に対するアンケート調査（資料9）

本学大学院（博士後期課程）の入学定員を設定するにあたり、本学大学院（博士後期課程）が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、石川県内企業、商社等に勤める従業員を対象として本学大学院（博士後期課程）設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで、「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」調査を実施した。
(調査結果)

本学大学院（博士後期課程）への興味・関心を尋ねる設問（問5）において、回答者（10人）のうち、「大いに興味・関心がある」が4人（40%）、「興味・関心がある」が2人（20%）、「少し興味・関心がある」が4人（40%）と、計10人（100%）が興味・関心を示している。そのうち、グローカル文化学専攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると（問9）は、2人の回答者のうち「入学したい」が1人（50%）、「条件が整えば入学したい」が1人（50%）と結果が出た。また、入学のために求める修学条件の調査より、「休日昼間・夏季集中・夜間開講等、授業時間帯の工夫」や「修学期間の延長」の必要性が示唆された。本学大学院（博士後期課程）では、仕事に従事しながら学修を望む社会人大学院生への学修機会の提供を目的とし、社会人特別選抜、長期履修学生制度、及び昼夜開講制度を設け、社会人が仕事を継続しながら学修できる環境を整えている。また、問5において本学大学院（博士後期課程）について興味・関心があると回答した方（10人）に、興味・関心がある理由を尋ねると（問6）、「新しい視点からの研究ができそうだから」が7件と最も多く、次いで「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が6件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。また、自由記述欄には、「在職のまま学位を取得することを考えると3年では短いと考えられ、就学期間の延長措置が整備されることが望ましい。また、一部の大学においては、博士課程での単位取得満期退学の後、一定の期間内において学位論文の提出を認め、審査を受けて認められた者を「課程博士」として取り扱う事例もあることから、貴学においてもご検討いただきたい。この考え方は在職中の者だけではなく、子育て中の者に対しても研究や学位の授与の機会を広げるものであり、今後の社会において必要なシステムであると考える。」といった、大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻の設置を期待する要望意見があった。このアンケート結果より、本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻の設置に対しては、石川県内企業・商社等において社会人の入学が見込まれると考えている。

④海外協定校及び共同研究関連校等に対するアンケート調査）（資料13）

本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻では、外国人留学生を入学者として受け入れる計画をしている。そこで、本学の協定校及び共同研究関連校である海外の大学を対象に、本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻への進学意向のアンケート調査を実施した。

（調査結果）

有効回答として3大学からの回答を得た。その結果、本学大学院（博士後期課程）への入学希望者の推定人数について尋ねた設問に対しては、グローバル文化学専攻への3つの大学が1年ごとに1人以上の留学生を入学させたいという回答があった。

B. 新設学部等の分野の動向 （参考1参照）

大学院修士課程の修了者を輩出していない本学が中長期的な大学院（博士後期課程）への入学生の確保を見通すため、本学の大学院と類似する専攻を有する石川県内近隣大学1校〔国立大学（金沢大学）〕における過去3年間の大学院博士後期課程への入学者数と定員充足率の平均値を調査した。

算出の結果、国立大学の金沢大学大学院人間社会環境学専攻の博士後期課程の令和2年度から令和4年度までの3年間の入学者数と定員充足率の平均値は、それぞれ14人（定員12人）および117%であった。以上の調査結果ならびに調査対象とした大学の学部または修士課程の入学定員数が本学の国際文化交流学部またはグローバル文化学専攻（修士課程）の入学定員数よりも多いことを考慮し、グローバル文化学専攻の博士後期課程の入学定員を1人に設定している。

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等 （資料9、参考1）

本学の大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学1校〔国立大学（金沢大学）〕における修士課程（博士前期課程）と博士課程（博士後期課程）の入学定員と修士課程修了者の進学率（内部進学率）を調査した。金沢大学大学院人間社会環境研究科人間社会環境学専攻の博士前期課程と博士後期課程の入学定員は、それぞれ53人と12人である。修士課程（博士前期課程）の定員数の約3割を博士課程（博士後期課程）の定員数に設定しているが、本学の修士課程（博士前期課程）と博士課程（博士後期課程）の入学定員数の設定も同様である。一方で、令和2年度から令和4年度までの3年間の内部進学率の平均値は、12%と低い値であった。これは、人文社会系の大学院では、「学生の専門分野は修士課程の指導教員の専門分野と必ずしも同じではないことが普通であり、修士課程を修了後、より専門の近い指導者がいる他大学の博士課程に入学する」ことが珍しくないためと考えられる。この考えは、低い内部進学率にも関わらず、前項に記述した通り博士課程（博士後期課程）において高い定員充足率を維持していることとも矛盾しない。従って、各教員がそれぞれの研究分野において一定のレベルを保ち、学会や地域社会との横のつながりを維持する限りにおいて、外国人留学生も含めた、博士課程（博士後期課程）の高い定員充足率を維持することはできるものと考える。

また、「石川県内企業、商社等に勤める従業員に対するアンケート調査」（資料9）に詳述した通り、石川県内企業、商社等に勤める従業員の中に、「休日昼間・夏季集中・夜間開講等、授業時間帯の工夫」や「修学期間の延長」などの本学の大学院（博士後期課程）が対

応できる配慮があれば、本学の大学院（博士後期課程）へ社会人大学院生として進学を希望する者が複数人いると考えられる。従って、本学の大学院（博士後期課程）のグローカル文化学専攻は、中長期的に石川県内企業、商社等から社会人入学者も確保できると考えている。

D. 競合校の状況 （参考1参照）

本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻は、国際文化という観点から、人類の持続的発展のための諸課題を明らかにし、言語文化学、観光学、政治・経済学といった専門分野において、それら課題の解決と社会実装に向けての能力を育成する。これらの分野に類似した専攻を持つ競合校として県内近隣大学院には金沢大学大学院人間社会環境学専攻がある。本学の大学院（博士後期課程）への中長期的な入学生の確保を見通すため、本大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学における大学院博士後期課程への志願状況等について調査を行い、過去3年間の近隣大学における定員充足率を平均値化して算出した（参考1）。

算出の結果、前項でも詳述したとおり、本学大学院グローカル文化学専攻に対応する他大学の類似する専攻では、12人の定員を有し、過去3年間の平均入学者数は14人と推定される。将来、国際および地域社会において指導的役割を果たすことのできる人材を育成するためにも、入学定員の設定が重要であると考えるが、県内近隣大学の競合校の充足率等を参考にした結果、本学大学院（博士後期課程）のグローカル文化学専攻の入学定員を1人の設定で充足できると判断している。

E. 既設学部等の学生確保の状況

令和4年度に開設した大学院グローカル文化学専攻（修士課程）の初年度の入学者数は、入学定員3人に対して3人であった（定員充足率100%）。この3人の内訳は、他大学進学生1人、社会人入学生1人、外国人留学生1人であった。令和5年度のグローカル文化学専攻の入学生については、現時点で外国人留学生1人が大学院入試に合格し入学する予定である。また、2023年3月に行われる第2次募集の大学院試験への志願予定者がいるので、令和5年度の入学定員充足率は100%を見込んでいる。

大学院修士課程1年生（R4年度）

	グローカル文化学専攻 3人（入学定員）
志願者数	3人
受験者数	3人
合格者数	3人
入学者数	3人

F. その他、申請者において検討・分析した事項

本学大学院の入学定員を設定するにあたって、入学希望の状況等を把握するため、本学の学部生（1～4年生）及び大学院生（修士課程1年生）、石川県内企業・商社に勤める従業員を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」を実施した（資料1・資料5-1・資料9）。その結果、興味関心を持ち、受験に合格した場合入学したいと回答した者の人数は2人であった。また、本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査を実施した（資料13）。その結果では、毎年3人は入学の可能性がある者がいることが期待された。以上のことからグローカル文化専攻の入学定員1名に対し、入学の可能性がある者は5人以上と推定される。また、中長期的な学生確保の見通しを得るため、本学の大学院と類似する専攻を有する石川県内の近隣大学1校〔国立大学（金沢大学）〕における修士課程（博士前期課程）と博士課程（博士後期課程）の入学定員と修士課程修了者の進学率（内部進学率）を調査した（参考1）。その結果、金沢大学大学院人間社会環境学専攻は、博士課程前期課程の定員数の約3割を博士後期課程の入学定員数に設定していることが明らかになったが、本学の修士課程（博士前期課程）と博士課程（博士後期課程）の入学定員数の割合の同様である。金沢大学大学院の内部進学率の調査より、博士課程（博士後期課程）の高い定員充足率を維持するためには、社会人大学院生及び外国人留学生の確保が重要になることが支持された。

（資料1, 5-1, 9, 13 抜粋） 単位：（人数）

	学部生	大学院生	企業の従業員	海外協定校	計
（興味関心→受験希望→入学したい）	1	0	1	3.5	5.5
（興味関心→受験希望→条件が整えば入学したい）	1	0	1	—	2
計	2	0	2	3.5	7.5

再調査結果（資料5-2）

あらたに令和5年度在籍の大学院生（修士課程1・2年生）を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート」を令和5年6月に実施した（資料5-2）。その調査結果を令和4年11月に実施した調査結果（大学院生修士課程除く）とあわせて分析したところ、興味関心を持ち、受験に合格した場合入学したいと回答した者の人数は4人であった。また、11月に実施した本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査結果（資料13）を合わせると、グローカル文化専攻の入学定員1名に対し、入学の可能性がある者は7人以上と推定される。

再調査（大学院生のみ・大学院生以外は11月実施の調査結果）（資料1,5-2,9,13抜粋）単位：（人数）

	学部生	大学院生	企業の 従業員	海外協定校	計
(興味関心→受験希望→入学したい)	1	2	1	3.5	7.5
(興味関心→受験希望→条件が整え ば入学したい)	1	0	1	—	2
計	2	2	2	3.5	9.5

（才）学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果

本学の大学院（博士後期課程）の学生確保に向け、修士課程からの進学者、社会人学生及び外国人留学生の確保に向けた取組を中心に行っていく予定である。修士課程からの進学者については、新学期のオリエンテーションやガイダンスの際に、本専攻（博士後期課程）の周知を行うほか、在学生向けの説明会を開催し、本専攻（博士後期課程）の教育研究内容について理解を深める場を設け、更に修学支援制度の説明をあらたに加える予定である。社会人学生の確保に関しては、社会人学生の受け入れを促進するため、昼夜開講制度や長期履修学生制度を設けるとともに、入学試験においても社会人選抜を実施する。各人の事情に合わせて大学院で学べるよう、就業しながら通いやすい環境を整えていく。実際に、令和4年度に開設したサステイナブルシステム科学研究科（修士課程）において、オンデマンド授業を活用して多くの社会人学生が夜間・土曜日に授業を受講し研究指導を受けている。本学大学院（博士後期課程）においても、引き続き柔軟に社会人学生の需要に対応する予定である。さらに、外国人留学生の確保に関しては、本学の協定校等に対して、希望に応じてオンラインでの説明会を開催し、本専攻（博士後期課程）の教育研究内容や修学支援制度について紹介し、留学希望者の確保につなげる。また、本学には留学生が入寮可能な学生寮も整備しており、経済的にも安心して留学できる環境である。

以上に加えて、積極的な情報発信に努める。本学大学院（博士後期課程）の広報ツールとして、大学案内に本研究科の特色やカリキュラムの内容を記載し、広く周知を行い、募集要項と共に本学協力企業及び商工会議所会員企業等、本学に関連する企業・機関等に配布する。また、本学公式ホームページにおいて、教員の研究内容や制度内容について分かり易く示して情報発信を行う。加えて、大学院の受験情報誌をはじめ、学会等を通じての周知・広報も実施する予定である。これらの取り組みにより、学生、社会人、地元の企業等の本学大学院（博士後期課程）への入学への関心度が高まり、入学者の確保につながっていくと想定している。

第2 人材需要の動向等社会の要請

1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学大学院サステイナブルシステム科学研究科が養成を目指す人材は、本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者である。また、外国人留学生のための特別日本語学習講座の設定や「平日夜間・休日昼間の授業の開講」や「社会人特別選抜等の入学試験の導入」といった社会人学生に対する学修環境を充実させることで、幅広い層を対象とした教育研究を推進する。

グローカル文化学専攻では、南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざしている。

2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

現在、国内の地方各地では、それぞれの社会的、経済的な要請により、さまざまな形での地域創生の取り組みが行われている。古来、小松を中心とする地域は、ものづくりの伝統があり、交通の要衝でもあったことから、モノが流通し、人が交流することで長く栄えてきた場所であるが、そんな南加賀地域でも近年では地域の活性化が不可欠となっていて、産官学の協働によるさまざまな取り組みが進められている。ものづくりを担う企業ではグローバル化が進むが、その際にさまざまな文化的背景を持つ人々が一緒になってひとつの事業に取り組む必要があり、そこでは語学力や国際関係に関する知識に加えて、異文化理解に関する深い知識を持った人材の活躍の場は広がっている。また地域社会の活性化の現場では、近年では管理工学的な手法なども多用されるようになってきており、こうした高度な知識を持つ人材が求められるようになってきている。

そこで、本学大学院（博士後期課程）を設置するにあたり、地域からの期待や本学大学院（博士後期課程）修了生の採用意向等を把握するため、石川県内企業・商社（運輸業・金融業・サービス業等）等82団体に対して、本学大学院（博士後期課程）設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで、本学大学院（博士後期課程）設置に関するウェブアンケート調査を実施し、12の団体（回答率：15%）から回答を得た。アンケート調査の結果より、本学に大学院（博士後期課程）を設置することは、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると考えられた。

【公立小松大学大学院設置に関するアンケート実施概要】

＜採用意向調査（グローバル文化学専攻）＞（資料 17）

調査対象：石川県内企業・商社等（82 団体）

実施時期：令和 4 年 12 月

回答状況（回答率）：12 団体（15%）

石川県内企業・商社等に対するアンケート調査（資料 17）の結果の分析

本学大学院（博士後期課程）グローバル文化学専攻修了生の採用の意向を尋ねたところ（問 7）、「採用したい」との回答が 1 団体、「採用を検討したい」との回答が 7 団体からあった。「採用したい、採用を検討したい」と回答した団体に対して、採用を検討する場合、毎年何人程度の採用が想定されるかを尋ねた設問（問 8）の回答から、採用想定人数を算出した結果、グローバル文化学専攻修了生の採用想定人数は 2 人という数値であった。

また、本学大学院（博士後期課程）の必要性を尋ねた設問（問 6）では、「社会的必要性が高い」が 7 団体（59%）、「一応社会的必要性を感じる」3 団体（25%）と合わせて 10 団体（84%）が必要だと回答した。この結果により、回答した企業の多くがグローバル文化学専攻で養成をめざす人材に関する必要性を感じていることが分かり、本学大学院（博士後期課程）グローバル文化学専攻修了生に対する採用ニーズも十分見込むことができると確認できた。

（資料 17 抜粋）

	グローバル文化学専攻
採用したい 採用を検討したい	8 団体
採用想定人数/年	2 人
入学定員	1 人

次に、本学が養成をめざす外国人留学生の大学院生の社会的ニーズに関して述べる。

外国人留学生に関する卒業後の進路について独立行政法人日本学生支援機構「2020（令和 2 年度 外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果）（令和 4 年 4 月）（資料 21 赤枠参照）の「（内訳 1）専攻区分別進路状況調査結果」では、専攻区分で見ると博士前期課程修了者のうち、日本国内に進学した者は、人文科学系が 16.3%、社会科学系が 7.1%、また就職した者は人文科学系が 22.5%、社会科学系が 25.9% であった。

このため、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」教育未来創造会議第一次提言（令和 4 年 5 月 10 日）（資料 22 赤枠参照）では、高度外国人の育成・活躍推進について、「大学等における外国人留学生の就職・起業支援の強化を図る。アジア諸国との

高度人材地域の地方公共団体・大学・経済団体・地場企業等から構成されたコンソーシアムを形成するなど、外国人留学生の就職・定着・起業の支援に向けた連携を強化する」等、具体的な方策を挙げている。本学でも、学部と大学院修士課程の学びが接続された今、学部共通科目としての「地域実習」や「インターンシップ」において、地元企業との関係性がますます深まっている。博士後期課程においても、それを利用した就職機会の提供支援が存在する。

資料目次

公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート【本学学生対象】	2
資料 1：進学意向調査結果（本学在学部生）の概要	2
資料 2：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	6
資料 3：調査票	7
資料 4：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	11
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート【本学大学院生（修士課程）対象】	14
資料 5-1：進学意向調査結果（本学在大学院生）の概要	14
資料 5-2：進学意向再調査結果（本学在大学院生 グローカル文化学専攻）の概要	18
資料 6-1：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	22
資料 6-2：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	23
資料 7-1：調査票	24
資料 7-2：調査票	28
資料 8-1：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	32
資料 8-2：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	35
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート【社会人共通対象】	38
資料 9：入学意向調査結果（県内企業、商社等）の概要	38
資料 10：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	44
資料 11：調査票	46
資料 12：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	51
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート（海外協定校等）	54
資料 13：入学意向調査結果（海外協定校及び共同研究関連校等）の概要	54
資料 14：調査回答	55
資料 15：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	56
資料 16：調査票	57
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート（グローカル文化学専攻）	60
資料 17：採用意向調査結果（事業所）の概要	60
資料 18：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文	64
資料 19：調査票	68
資料 20：大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット	73
参考資料	
参考 1：石川県内に類似する分野を持つ大学院（博士後期課程）入学状況	76
資料 21：「2020（令和2年度 外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果）」	
独立行政法人日本学生支援機構	77
資料 22：「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」	
教育未来創造会議第一次提言	79

公立小松大学大学院(博士後期課程) 設置に関するアンケート【本学学生対象】
【進学意向調査結果(本学在学部生)の概要】

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

令和6年4月に予定している「公立小松大学大学院(博士後期課程)」の設置に向けて、公立小松大学の在学生を対象に、本学大学院(博士後期課程)グローバル文化学専攻への進学意向を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院(博士後期課程)への現在の進学希望
- 公立小松大学大学院(博士後期課程)への興味・関心理由
- 公立小松大学大学院(博士後期課程)への将来的な進学希望

(4) 調査対象

公立小松大学の学部生(国際文化交流学部 1~4年生、322人)

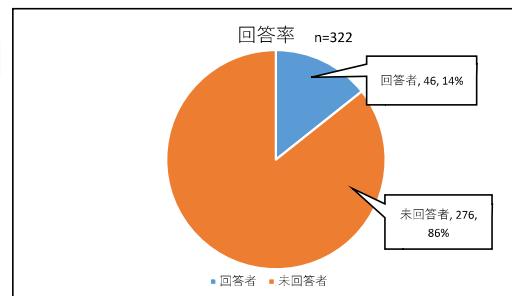
(5) 調査実施時期

令和4年11月

(6) 回答状況

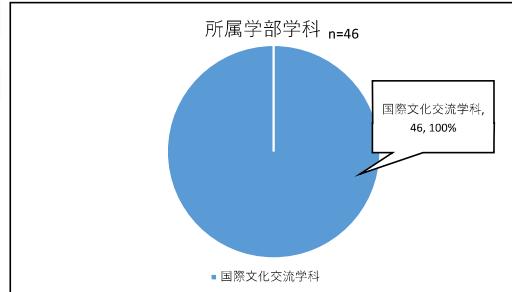
46人(回答率: 14%)

アンケート対象(全学生)	322
回答者	46
未回答者	276



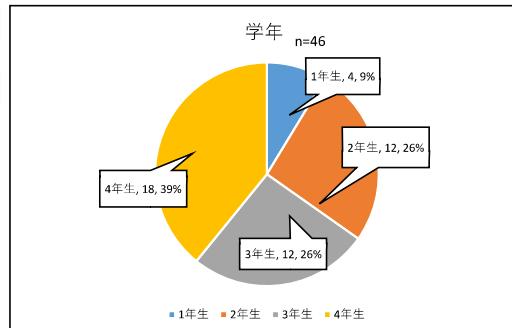
1. 所属学部学科を選択してください。

生産システム学科	
看護学科	
臨床工学科	
国際文化交流学科	46
【内訳】	
国際(1年4人、2年12人、3年12人、4年18人)	



2. 学年を選択してください。

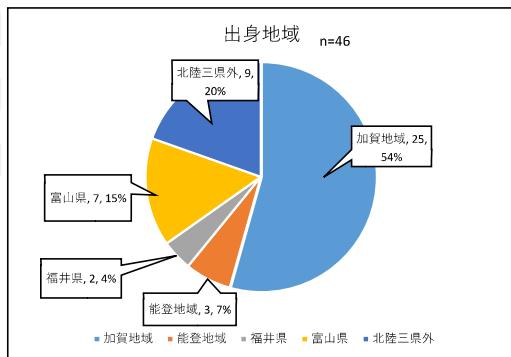
1年生	4
2年生	12
3年生	12
4年生	18
【内訳】	
国際(1年4人、2年12人、3年12人、4年18人)	46



3. 出身地域を選択してください。

加賀地域	25
能登地域	3
福井県	2
富山県	7
北陸三県外	9

【内訳】



4. 本学卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

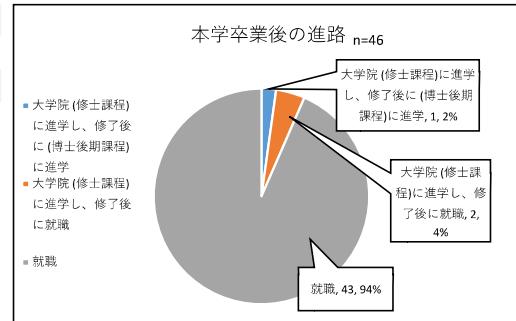
大学院(修士課程)に進学し、修了後に(博士後期課程)に進学	1
大学院(修士課程)に進学し、修了後に就職	2
就職	43

【内訳】

大学院進学

国際(4年1人)	1
修了後就職	2
国際(3年1人、4年1人)	2
就職	43

国際(1年4人、2年12人、3年11人、4年16人)



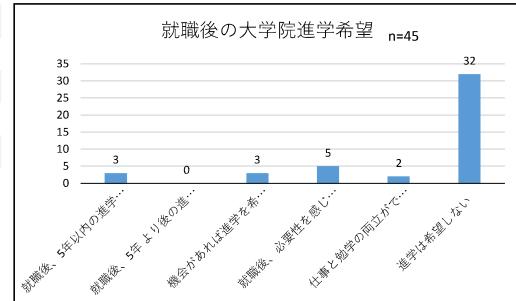
5. 就職をした後の大学院(博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。

就職後、5年以内の進学を希望する	3
就職後、5年より後の進学を希望する	0
機会があれば進学を希望する	3
就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する	5
仕事と勉学の両立ができるれば進学を希望する	2
進学は希望しない	32

【内訳】

5年以内の進学

国際(3年1人、4年2人)	3
機会があれば進学	3
国際(1年1人、3年1人、4年1人)	3
必要性	5
国際(1年1人、2年1人、3年1人、4年2人)	5
両立	2
国際(3年1人、4年1人)	2



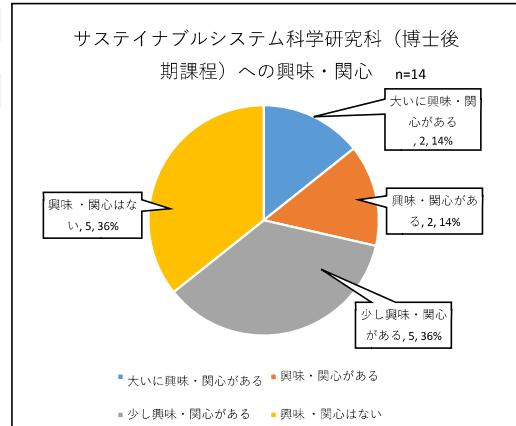
6. 令和6年(2024年)4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナフリシステム科学研究科(博士後期課程)についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある	2
興味・関心がある	2
少し興味・関心がある	5
興味・関心はない	5

【内訳】

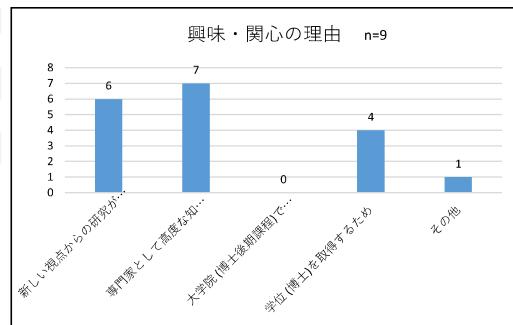
大いに

国際(3年1人、4年1人)	2
興味	2
国際(3年1人、4年1人)	2
少し	5
国際(1年1人、2年1人、3年1人、4年2人)	5
ない	5
国際(1年1人、3年1人、4年3人)	5
無回答	32



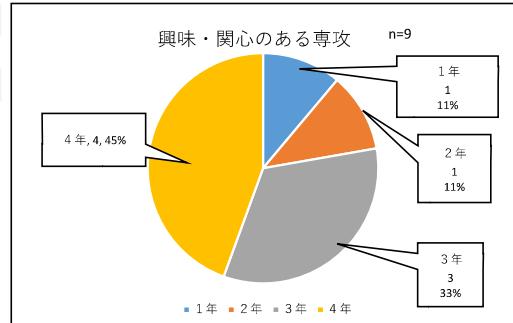
7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

新しい視点からの研究ができるから	6
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	7
大学院(博士後期課程)で研究したいテーマがあるから	0
学位(博士)を取得するため	4
その他	1



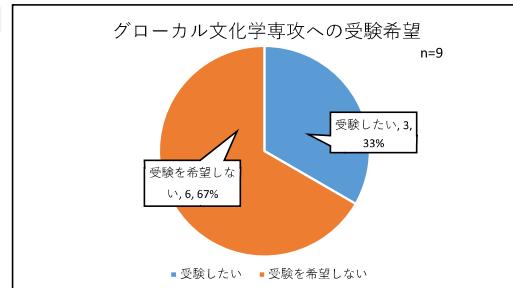
8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。(グローカル文化学専攻)

1年	1
2年	1
3年	3
4年	4
国際(1年1人、2年1人、3年3人、4年4人)	9



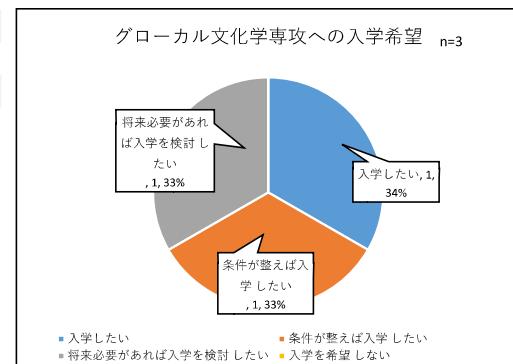
9. 本学に大学院(博士後期課程)が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

受験したい	3
受験を希望しない	6
受験したい	3
国際(3年2人、4年1人)	3



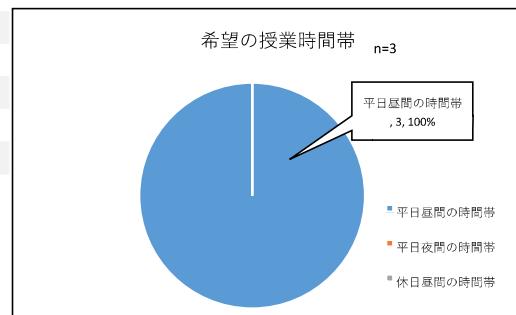
10. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	1
条件が整えば入学したい	1
将来必要があれば入学を検討したい	1
入学を希望しない	0
入学したい	1
国際(4年1人)	1
条件が整えば	1
国際(3年1人)	1
将来必要	1
国際(3年1人)	1



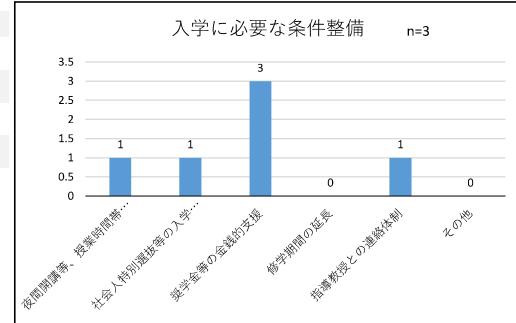
11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯	3
平日夜間の時間帯	0
休日昼間の時間帯	0
夏季集中	0
その他	0
平日昼間 (3年2人、4年1人)	3
平日夜間	
休日昼間	
夏季集中	



12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	1
社会人特別選抜等の入学試験	1
奨学金等の金錢的支援	3
修学期間の延長	0
指導教授との連絡体制	1
その他	0
夜間開講 (3年1人)	1
社会人選抜 (4年1人)	1
奨学金 (3年2人、4年1人)	3
修学期間	0
指導教授 (3年1人)	1



13. 「公立小松大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

1. 大学院の設置よりもまず、学校の設備を充実させるべきです。特に中央キャンパスは、学食や食堂もなく図書館の本もほとんどなく、大変不便です。学生からすると、大学院の設置を優先するのは何だか順番が間違っているような印象を受けます。
2. 新規で大きなキャンパスを設立せずとも設けられる気がするので、中央キャンパスの近くあるいは内部に小規模に設けるところから始めて良いと思う。
3. オンデマンドでの参画も可としてほしい。

学部生用ポータル依頼文

件名：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査

內容：

学部生 各位

2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。

- ・このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。
 - ・回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。
 - ・本アンケートの締切は令和4年11月30日（水）です。

なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

URL : <https://forms.office.com/r/S34deQy9UG>

お問い合わせ先：学生課 学務・大学院担当 山崎、神田 TEL0761-41-6700

件名 ✓	公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査	
<input type="checkbox"/> 重要（掲示／メールに重要マークが設定されます。）		
差出人 ✓	大学院担当 <input type="checkbox"/> メールの返信を許可する 返信先メールアドレスを入力 ※配信したメールにユーザーが返信する場合、入力したアドレスが返信先となります。	
揭示／メール共通エリア 定型文選択		
		
学部生（全学科1～4年生） 各位 ...		
<p>2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。 回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。 本アンケートの締切は令和4年11月30日（水）です。 <p>なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。</p> <p>URL : https://forms.office.com/r/JB9Pg4TZ6U お問い合わせ先：事務局 山崎、神田 TEL0761-41-6700</p>		

(ポータルサイトによる依頼文配信画面)

(学部生用) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究所 (博士後期課程) 設置に関するアンケート調査

在学生を対象に、2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究所（博士後期課程）に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。アンケートに関するお問い合わせは大学院担当 山崎、神田までお願いします。

□ ...

* 必須

あなたの所属をお尋ねします。

1. 所属学部学科を選んでください。 *

- 生産システム科学部 生産システム科学科
- 保健医療学部 看護学科
- 保健医療学部 臨床工学科
- 国際文化交流学部 国際文化交流学科

2. 学年を選んでください *

- 1年生
- 2年生
- 3年生
- 4年生

3. 出身地域を選んでください。 *

- 加賀地域 (小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町)
- 能登地域 (羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)
- 福井県
- 富山県
- 北陸3県以外

次へ

(学部生用) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科(博士後期課程)設置に関するアンケート調査

...

* 必須

卒業後の進路希望および設置計画中の公立小松大学大学院 (博士後期課程)についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科(博士後期課程)設置構想リーフレットをご覧の上、ご回答ください。
URL : https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf

4. 本学卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。*

- 大学院(修士課程)に進学し、修了後に(博士後期課程)に進学
- 大学院(修士課程)に進学し、修了後に就職
- 就職

5. 就職をした後の大学院(博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。* □

- 就職後、5年以内の進学を希望する
- 就職後、5年より後の進学を希望する
- 機会があれば進学を希望する
- 就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する
- 仕事と勉学の両立ができるれば進学を希望する
- 進学は希望しない

戻る

送信

6. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究所科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 大いに興味・関心がある
- 興味・関心がある
- 少し興味・関心がある
- 興味・関心はない

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。*

2個のオプションを選択してください。

- 新しい視点からの研究ができそうだから
- 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- 学位（博士）を取得するため
- その他

8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。*

- 生産システム科学専攻
- ヘルスケアシステム科学専攻
- グローカル文化学専攻

9. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 受験したい
- 受験を希望しない

10. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。
*

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。
*

- 平日~~昼間~~の時間帯
- 平日夜間の時間帯
- 休日~~昼間~~の時間帯
- 夏季集中
- その他

12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。
*

- 2個のオプションを選択してください。
- 夜間開講等、授業時間帯の工夫
 - 社会人特別選抜等の入学試験
 - 奨学金等の金銭的支援
 - 修学期間の延長
 - 指導教授との連絡体制
 - その他

13. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

(仮称) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローカル文化学専攻

令和6年(2024年)4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

●概要

設置年月：令和6年(2024年)4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町又1番地3(本部)

名 称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻(博士後期課程)

ヘルスケアシステム科学専攻(博士後期課程) グローカル文化学専攻(博士後期課程)

修業年限：3年 入学時期：4月

定 員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローカル文化学専攻 1名

学 位：博士(工学)、博士(保健学)、博士(国際文化学)

●設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

●養成する人材像

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

●教育研究の特色

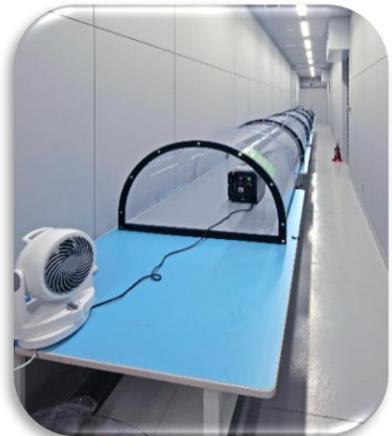
①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

・生産システム科学専攻〔学位：博士(工学)〕

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジ特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士(保健学)〕

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しつつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案していく高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ(MR)、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通、製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。（長期履修学生制度）
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。（昼夜開講制）

●学生納付金（予定）

入学料：（市内者）282,000円、（その他）423,000円 授業料：（年間）585,800円
※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000円	535,800円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000円	1,011,000円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000円	535,800円

ヘルスケアシステム科学専攻

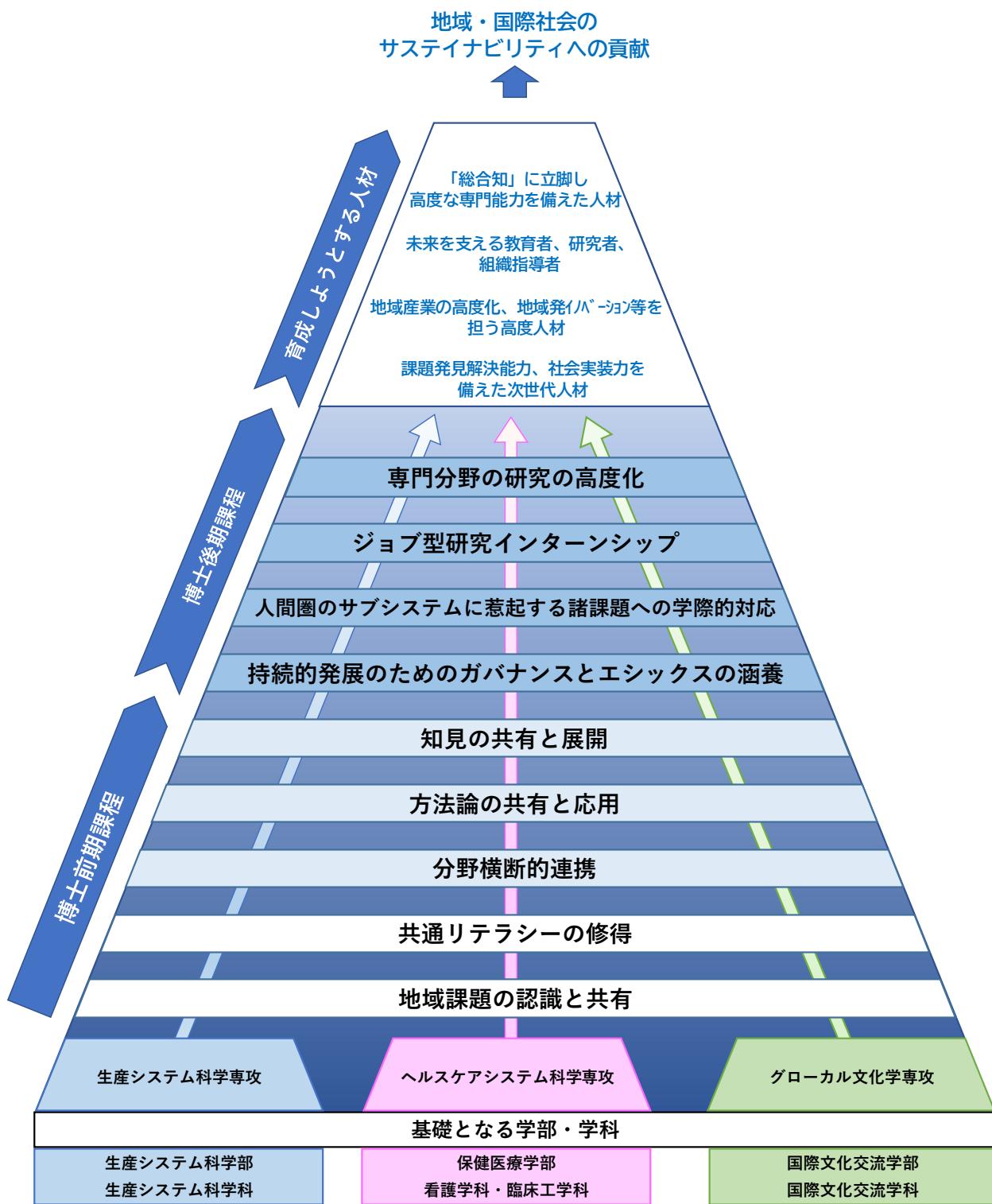
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000円	535,800円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内)282,000円 (県外)423,000円	535,800円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000円	535,800円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町ヌ1番地3 (JR栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究院博士課程における教育課程編成の考え方

公立小松大学大学院(博士後期課程) 設置に関するアンケート【本学大学院生対象】
【進学意向調査結果（本学在大学院生）の概要】

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

令和6年4月に予定している「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、公立小松大学大学院（修士課程）の大学院生を対象に、本学大学院（博士後期課程）グローバル文化学専攻への進学意向を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への現在の進学希望
- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への興味・関心理由
- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への将来的な進学希望

(4) 調査対象

公立小松大学の大学院生（グローバル文化学専攻 1年生 3人）

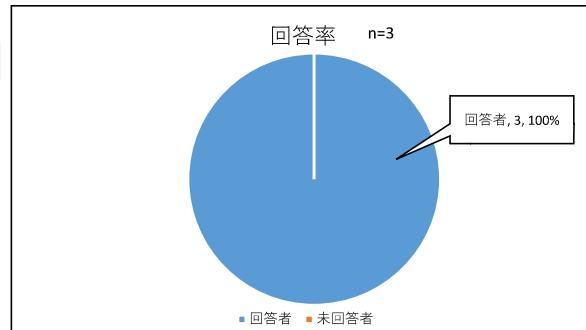
(5) 調査実施時期

令和4年11月

(6) 回答状況

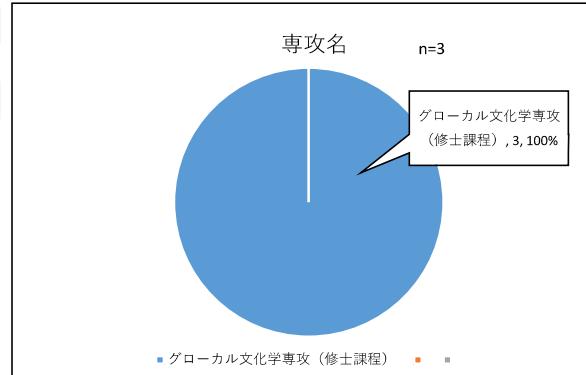
3人（回答率：100%）

アンケート対象（全学生）	3
回答者	3
未回答者	0



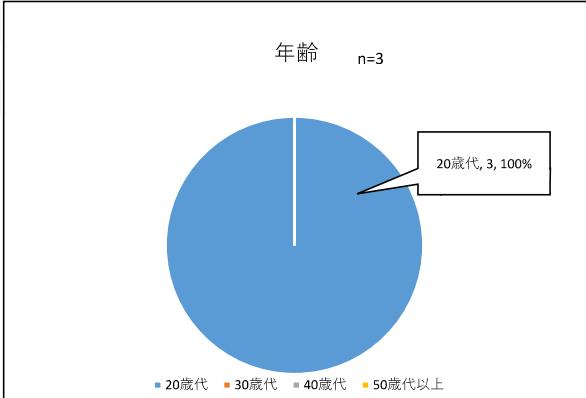
1. 所属専攻名を選んでください。

グローバル文化学専攻（修士課程）	3



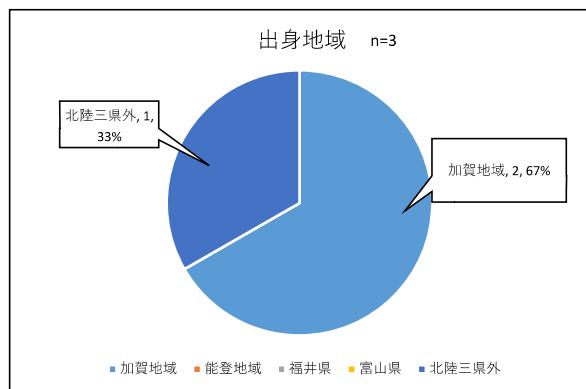
2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。

20歳代	3
30歳代	0
40歳代	0
50歳代以上	0



3. 出身地域を選択してください。

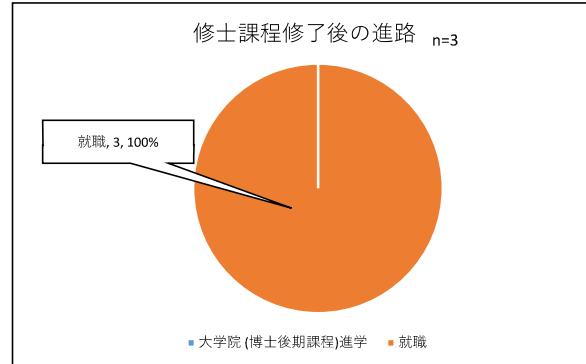
加賀地域	2
能登地域	0
福井県	0
富山県	0
北陸三県外	1



4. 本学大学院サステイナブルシステム科学研究科(修士課程)修了後どのような進路を希望しますか。

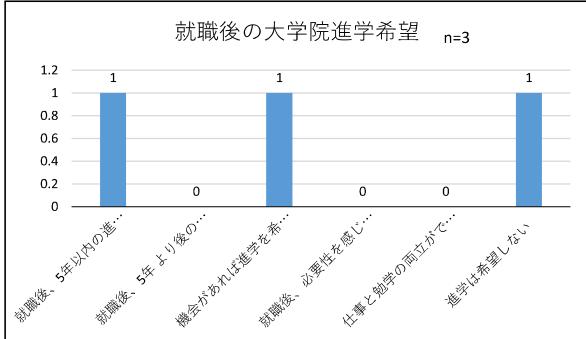
次の中から 1つ選んでください。

大学院(博士後期課程)進学	0
就職	3



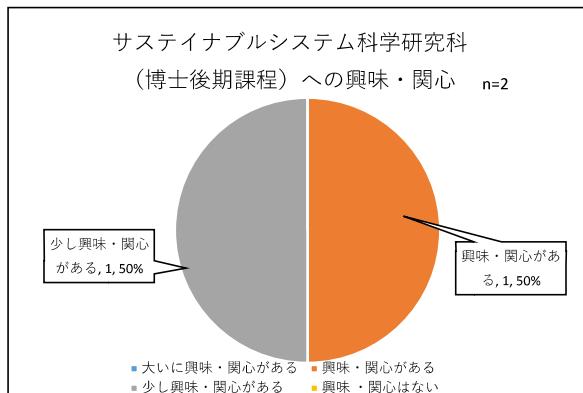
5. 就職をした後の大学院(博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から 1つ選んでください。

就職後、5年以内の進学を希望する	1
就職後、5年より後の進学を希望する	0
機会があれば進学を希望する	1
就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する	0
仕事と勉学の両立ができるれば進学を希望する	0
進学は希望しない	1



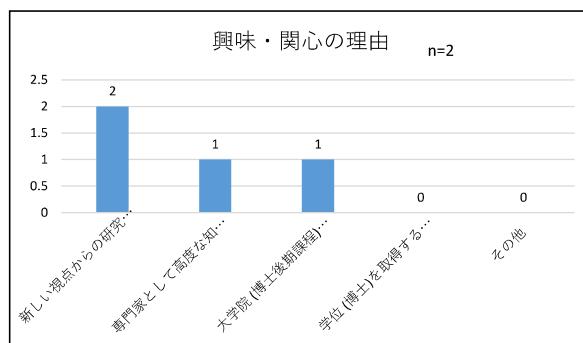
6. 令和6年(2024年)4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナフリシステム科学研究科(博士後期課程)についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある	0
興味・関心がある	1
少し興味・関心がある	1
興味・関心はない	0
無回答	1名



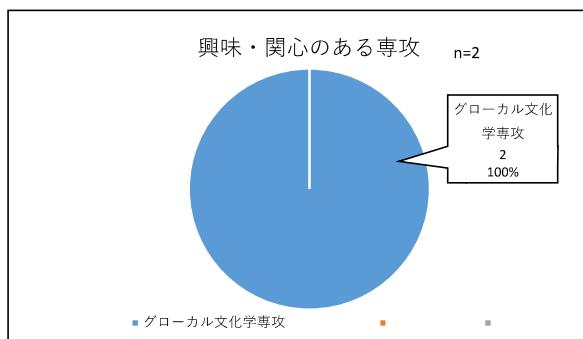
7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

新しい視点からの研究ができるから	2
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	1
大学院(博士後期課程)で研究したいテーマがあるから	1
学位(博士)を取得するため	0
その他	0



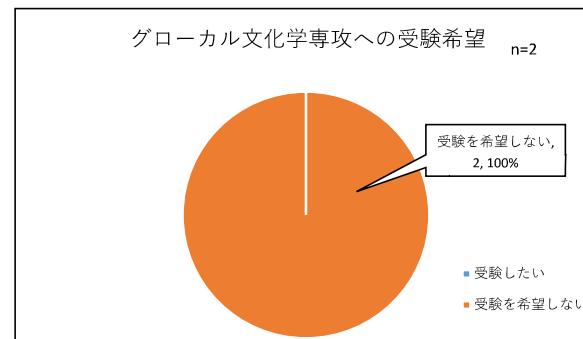
8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。

グローバル文化学専攻	2
その他	0



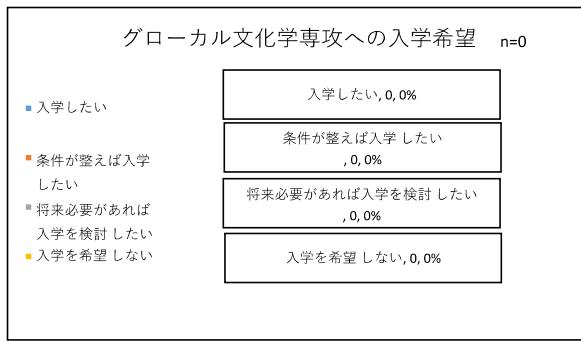
9. 本学に大学院(博士後期課程)が設置された場合、「グローバル文化学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

受験したい	0
受験を希望しない	2



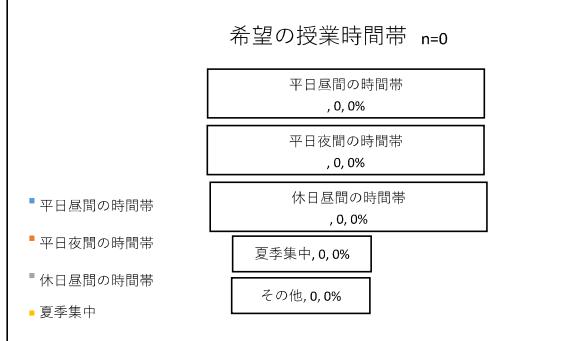
10. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	0
条件が整えば入学したい	0
将来必要があれば入学を検討したい	0
入学を希望しない	0



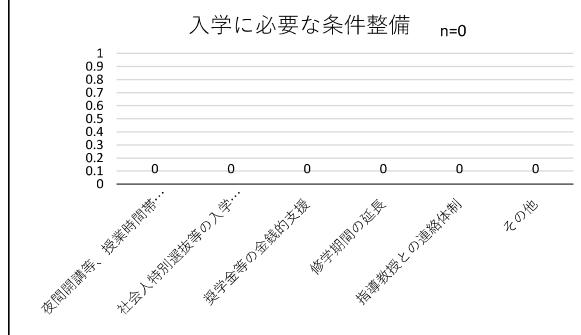
11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯	0
平日夜間の時間帯	0
休日昼間の時間帯	0
夏季集中	0
その他	0



12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	0
社会人特別選抜等の入学試験	0
奨学金等の金銭的支援	0
修学期間の延長	0
指導教授との連絡体制	0
その他	0



13. 「公立小松大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

1. Carbon trading is a concession given by developed countries whose industries produce CO2 that damages the environment. These concessions are given to countries whose forests absorb carbon.

公立小松大学大学院(博士後期課程) 設置に関するアンケート【本学大学院生対象】

【進学意向再調査結果（本学在大学院生 グローカル文化学専攻）の概要】

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

令和6年4月に予定している「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、公立小松大学大学院（修士課程）の大学院生を対象に、本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻への進学意向を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への現在の進学希望
- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への興味・関心理由
- 公立小松大学大学院（博士後期課程）への将来的な進学希望

(4) 調査対象

公立小松大学の大学院生 グローカル文化学専攻 5人（1年生2人 2年生2人 休学者1人）

(5) 再調査実施時期

令和5年6月

(6) 回答状況

4人（回答率：80%）

アンケート対象（全学生）

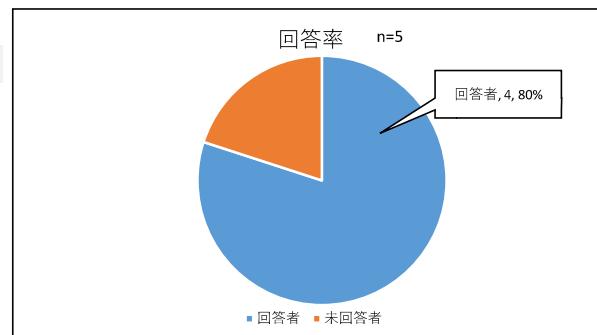
5

回答者

4

未回答者

1



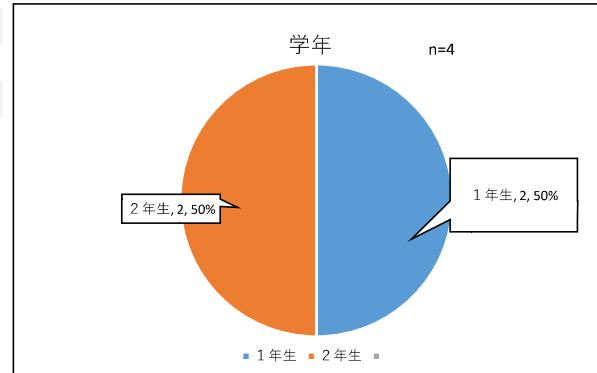
1. 学年を選んでください。

1年生

2

2年生

2



2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。

20歳代

3

30歳代

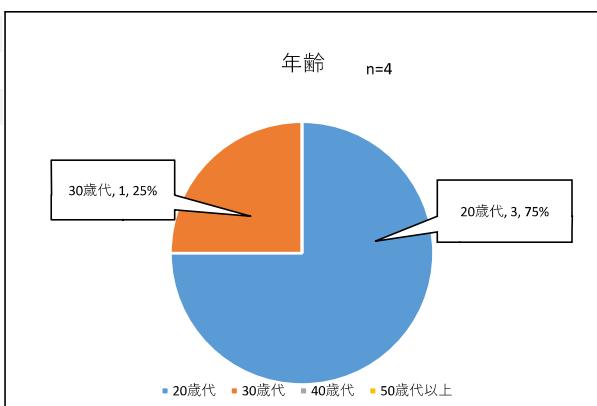
1

40歳代

0

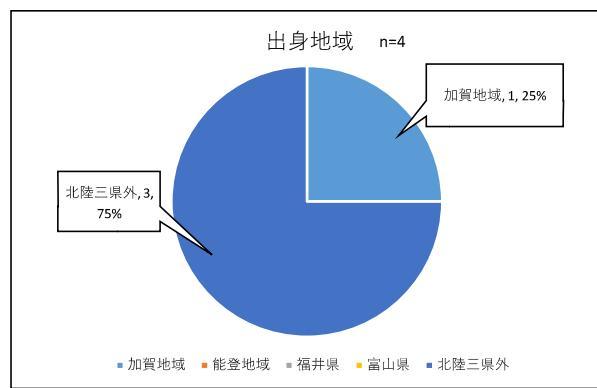
50歳代以上

0



3. 出身地域を選択してください。

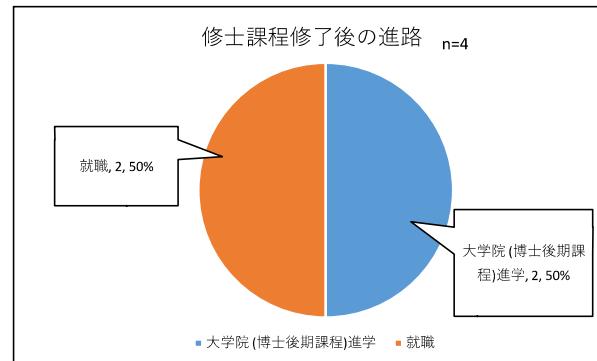
加賀地域	1
能登地域	0
福井県	0
富山県	0
北陸三県外	3



4. 本学大学院サステイナブルシステム科学研究科(修士課程)修了後どのような進路を希望しますか。

次の中から 1つ選んでください。

大学院(博士後期課程)進学	2
就職	2
【内訳】	
大学院進学	
1年1人、2年1人、	
就職	
1年1人、2年1人	

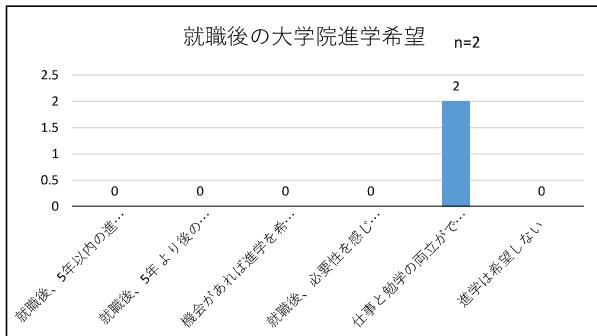


5. 就職をした後の大学院(博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から 1つ選んでください。

就職後、5年以内の進学を希望する	0
就職後、5年より後の進学を希望する	0
機会があれば進学を希望する	0
就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する	0
仕事と勉学の両立ができるれば進学を希望する	2
進学は希望しない	0

【内訳】	
両立	

1年1人、2年1人

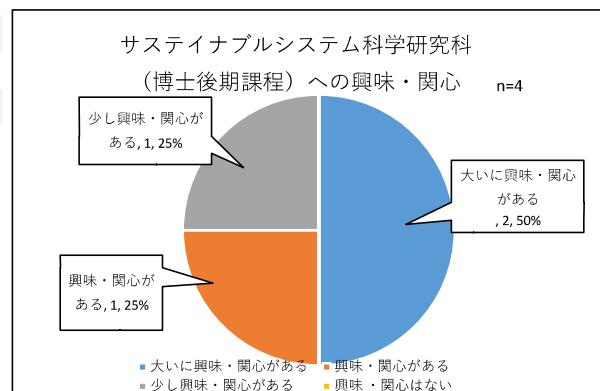


6. 令和6年(2024年)4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナフリシステム科学研究科(博士後期課程)
についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある	2
興味・関心がある	1
少し興味・関心がある	1
興味・関心はない	0

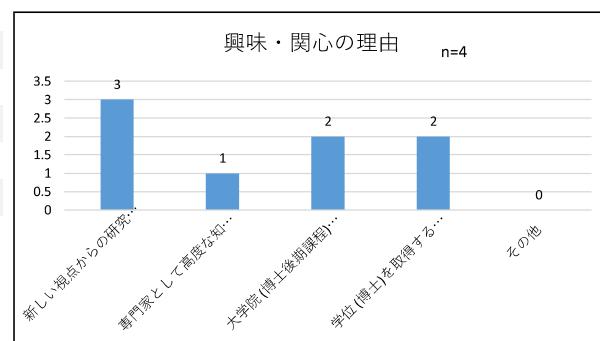
【内訳】

大いに
1年1人, 2年1人
興味
2年1人
少し
1年1人



7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

新しい視点からの研究ができるから	3
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	1
大学院(博士後期課程)で研究したいテーマがあるから	2
学位(博士)を取得するため	2
その他	0

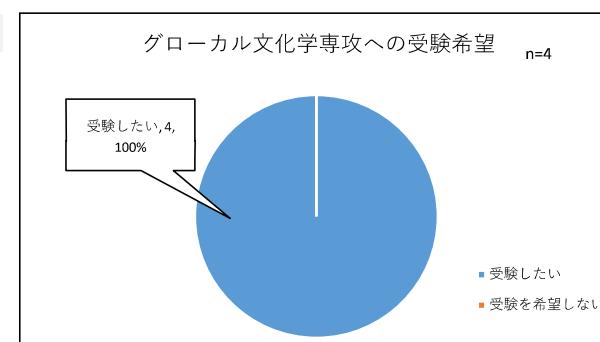


8. 本学に大学院(博士後期課程)が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。
次の中から1つ選んでください。

受験したい	4
受験を希望しない	0

【内訳】

受験したい
1年2人, 2年2人

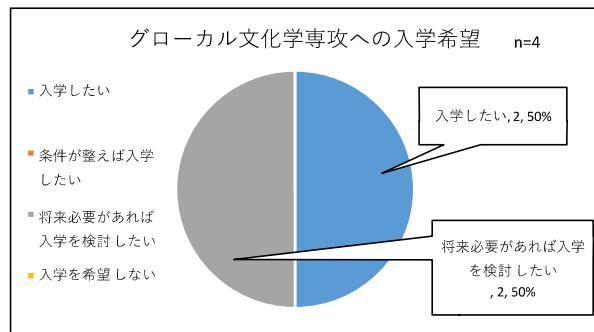


9. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	2
条件が整えば入学したい	0
将来必要があれば入学を検討したい	2
入学を希望しない	0

【内訳】

入学したい
1年1人 2年1人
将来必要
1年1人 2年1人

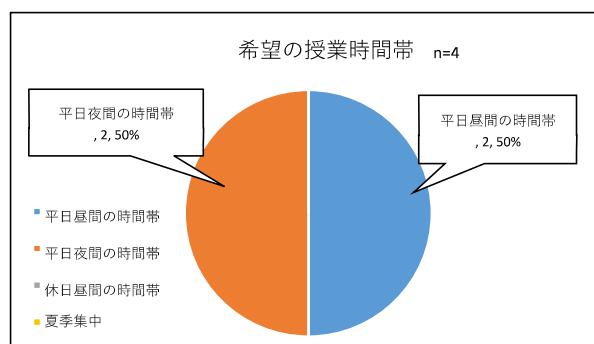


10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯	2
平日夜間の時間帯	2
休日昼間の時間帯	0
夏季集中	0
その他	0

【内訳】

平日昼間 1年1人、2年1人
平日夜間 1年1人、2年1人

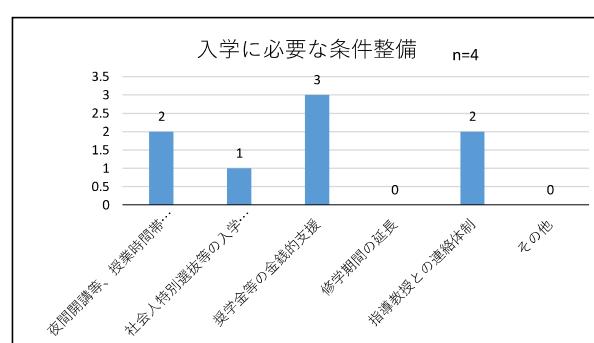


11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の 中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	2
社会人特別選抜等の入学試験	1
奨学金等の金銭的支援	3
修学期間の延長	0
指導教授との連絡体制	2
その他	0

【内訳】

夜間開講 1年1人、2年1人
社会人選抜 1年1人
奨学金 1年2人、2年1人
指導教授 2年2人



12. 「公立小松大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- 経済的支援があるので、安心して入学できます。
- 現在、行っている研究をさらに深め、関連する他の問題についても探求するため、博士後期課程に進学したいです。
- 負担軽減を目的に忙しい社会人学生でも3年間で確実に修了でき、通学機会ができるだけ減らしたカリキュラムの構築。
博士後期課程修了後の就職支援（社会人学生を除く）。

大学院生用ポータル依頼文

件名：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査

內容：

大学院生 各位

2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。

- ・このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。
 - ・回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。
 - ・本アンケートの締切は令和4年11月30日（水）です。

なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

URL : <https://forms.office.com/r/qaLTia6Urp>

お問い合わせ先：学生課 学務・大学院担当 山崎、神田 TEL0761-41-6700



(ポータルサイトによる依頼文配信画面)

大学院生用ポータル依頼文

件名：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査

（グローカル文化学専攻）

内容：

大学院生（グローカル文化学専攻）1, 2年生 各位

2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。

<https://forms.office.com/r/UZt5SGzvYu>

経済的支援についての説明が不足しておりますので、2年生は再調査のご協力をお願いいたします。

- ・このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。
- ・回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。
- ・本アンケートの締切は令和5年6月15日（木）です。

なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

お問い合わせ先：学生課 学務・大学院担当 山崎、神田 TEL0761-41-6700

The screenshot shows a Microsoft Word document with a dark blue header bar. The main content area has a white background with black text. The text is a template for an email, starting with '件名' (Subject) and '差出人' (From). It includes a subject line: '公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査（グローカル文化学専攻）'. Below the subject line is a checkbox for '重要' (Important) and a note: '(掲示／メールに重要マークが設定されます。)'. The 'From' section contains the text '大学院担当' and a checkbox for 'メールの返信を許可する' (Allow reply via email), with a note: '※配信したメールにユーザーが返信する場合、入力したアドレスが返信先となります。'. The 'Body' section contains the message text: '大学院生（グローカル文化学専攻）1, 2年生 各位' followed by a paragraph about the survey and its URL: '2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下のURLからアンケートに答えてください。
<https://forms.office.com/r/UZt5SGzvYu>'. Below this is another section with the same URL and a note: '経済的支援についての説明が不足しておりますので、2年生は再調査のご協力をお願いいたします。'. At the bottom of the message body, there is a bulleted list of three items. The document also includes standard Microsoft Word toolbar icons at the top and a ribbon menu at the very top.

(ポータルサイトによる依頼文配信画面)

(大学院生用) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置に関するアンケート調査

在学生を対象に、2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。アンケートに関するお問い合わせは大学院担当 山崎、神田までお願いします。

...

* 必須

あなたの所属をお尋ねします。

1. 所属専攻名を選んでください。 *

- 生産システム科学専攻（修士課程）
- ヘルスケアシステム科学専攻（修士課程）
- グローバル文化学専攻（修士課程）

2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。 *

- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳以上

3. 出身地域を選んでください。 *

- 加賀地域（小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町）
- 能登地域（羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
- 福井県
- 富山県
- 北陸3県以外

ンケート調査

...

* 必須

修士課程修了後の進路希望および設置計画中の公立小松大学大学院（博士後期課程）についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想リーフレットをご覧の上、ご回答ください。
URL : https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf

4. 本学大学院サステイナブルシステム科学研究科（修士課程）修了後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。 *

大学院（博士後期課程）進学

就職

5. 就職をした後の大学院（博士後期課程）進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。 *

就職後、5年以内の進学を希望する

就職後、5年より後の進学を希望する

機会があれば進学を希望する

就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する

仕事と勉学の両立ができるば進学を希望する

進学は希望しない

6. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。 *

大いに興味・関心がある

興味・関心がある

少し興味・関心がある

興味・関心はない

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。*



2個のオプションを選択してください。

- 新しい視点からの研究ができそうだから
- 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- 学位（博士）を取得するため
- その他

8. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。*

- 生産システム科学専攻
- ヘルスケアシステム科学専攻
- グローカル文化学専攻

9. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 受験したい
- 受験を希望しない

10. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。*

- 平日昼間の時間帯
- 平日夜間の時間帯
- 休日昼間の時間帯
- 夏季集中
- その他

12. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。*

- 2個のオプションを選択してください。
- 夜間開講等、授業時間帯の工夫
 - 社会人特別選抜等の入学試験
 - 奨学金等の金銭的支援
 - 修学期間の延長
 - 指導教授との連絡体制
 - その他

13. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

(大学院生用) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究所（博士後期課程）設置に関するアンケート調査（グローカル文化学専攻）

グローカル文化学専攻の在学生（1, 2年生）を対象に、2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究所（博士後期課程）に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。アンケートに関するお問い合わせは大学院担当 山崎、神田までお願いします。

* 必須

あなたの学年をお尋ねします。□

1. 学年を選んでください。* □

1年生
 2年生

2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。* □

20歳代
 30歳代
 40歳代
 50歳以上

3. 出身地域を選んでください。* □

加賀地域（小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町）
 能登地域（羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
 福井県
 富山県
 北陸3県以外

次へ

□ ...

(大学院生用) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)設置に関するアンケート調査(グローバル文化学専攻)

* 必須

修士課程修了後の進路希望および設置計画中の公立小松大学大学院(博士後期課程)についてお尋ねします。

以下のサステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)設置構想リーフレットをご覧の上、ご回答ください。
URL : https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf

4. 本学大学院サステナブルシステム科学研究科(修士課程)修了後どのような進路を希望しますか。次の中から1つ選んでください。* □

大学院(博士後期課程)進学

就職

5. 就職をした後の大学院(博士後期課程)進学希望についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。*

□

就職後、5年以内の進学を希望する

就職後、5年より後の進学を希望する

機会があれば進学を希望する

就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する

仕事と勉学の両立ができるば進学を希望する

進学は希望しない

6. 令和6年(2024年)4月に設置予定の公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。* □

大いに興味・関心がある

興味・関心がある

少し興味・関心がある

興味・関心はない

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。^{*}

2個のオプションを選択してください。

- 新しい視点からの研究ができるから
- 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- 学位（博士）を取得するため
- その他

8. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。^{*}

- 受験したい
- 受験を希望しない

戻る

送信

9. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。^{*}

[選択を解除](#)

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。^{*}

[選択を解除](#)

- 平日昼間の時間帯
- 平日夜間の時間帯
- 休日昼間の時間帯
- 夏季集中
- その他

11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたまで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。^{*}

2個のオプションを選択してください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫

社会人特別選抜等の入試試験

奨学金等の金銭的支援

修学期間の延長

指導教授との連絡体制

その他

12. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット

(仮称) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローカル文化学専攻

令和6年(2024年)4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

●概要

設置年月：令和6年(2024年)4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町又1番地3(本部)

名 称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻(博士後期課程)

ヘルスケアシステム科学専攻(博士後期課程) グローカル文化学専攻(博士後期課程)

修業年限：3年 入学時期：4月

定 員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローカル文化学専攻 1名

学 位：博士(工学)、博士(保健学)、博士(国際文化学)

●設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

●養成する人材像

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

●教育研究の特色

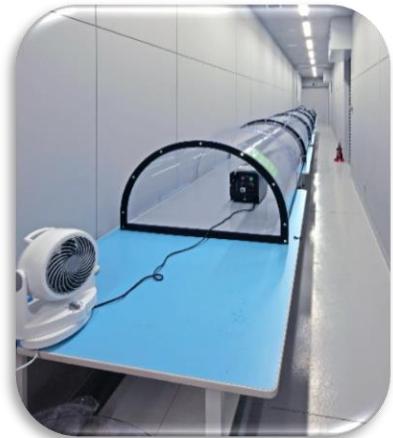
①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジ特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しつつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案していく高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ(MR)、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通、製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。(長期履修学生制度)
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。(昼夜開講制)

●学生納付金（予定）

入学料：(市内者) 282,000 円、(その他) 423,000 円 授業料：(年間) 585,800 円
※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

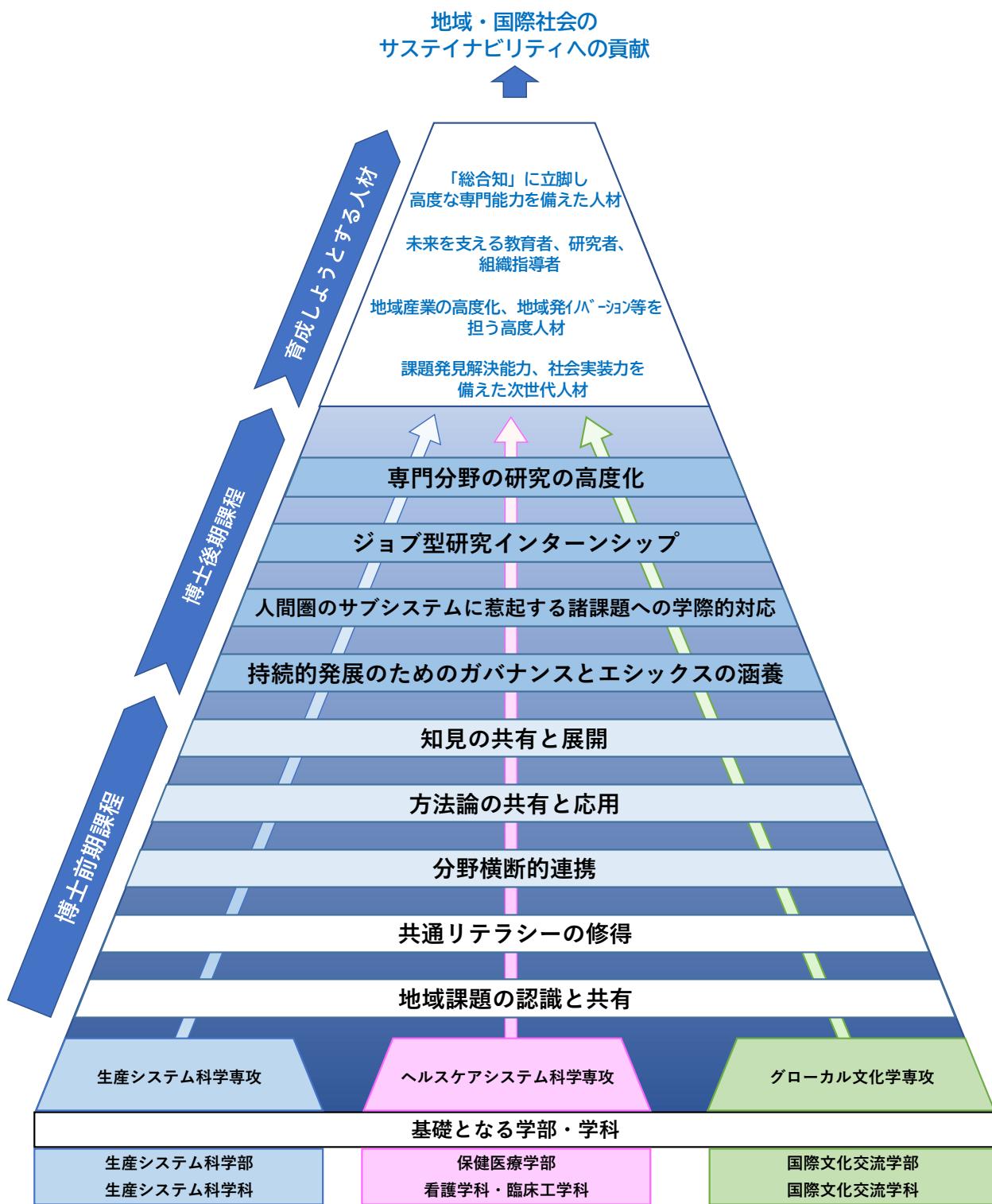
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000 円 (県外) 423,000 円	535,800 円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町ヌ1番地3 (JR栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究院における教育課程編成の考え方

(仮称) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローカル文化学専攻

令和6年(2024年)4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

●概要

設置年月：令和6年(2024年)4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町又1番地3(本部)

名 称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻(博士後期課程)

ヘルスケアシステム科学専攻(博士後期課程) グローカル文化学専攻(博士後期課程)

修業年限：3年 入学時期：4月

定 員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローカル文化学専攻 1名

学 位：博士(工学)、博士(保健学)、博士(国際文化学)

●設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

●養成する人材像

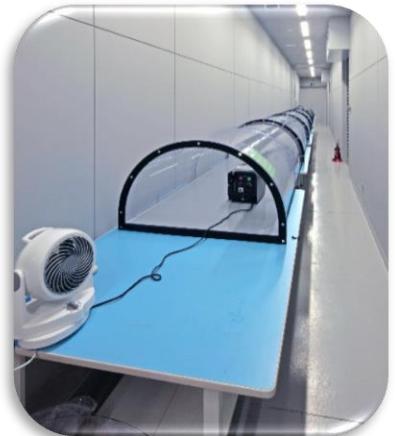
「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

●教育研究の特色

①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕

- ①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。
- ②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジ特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」
- ③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕

- ①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しつつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案していく高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。
- ②「コミュニティヘルスケア概論A」、「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」
- ③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ(MR)、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源学特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通、製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。（長期履修学生制度）
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。（昼夜開講制）

●学生納付金（予定）

入学料：（市内者）282,000円、（その他）423,000円 授業料：（年間）585,800円

※授業料減免・奨学金制度もあり

※博士後期課程学生に対する修学支援制度を予定している。

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000円	535,800円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000円	1,011,000円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000円	535,800円

ヘルスケアシステム科学専攻

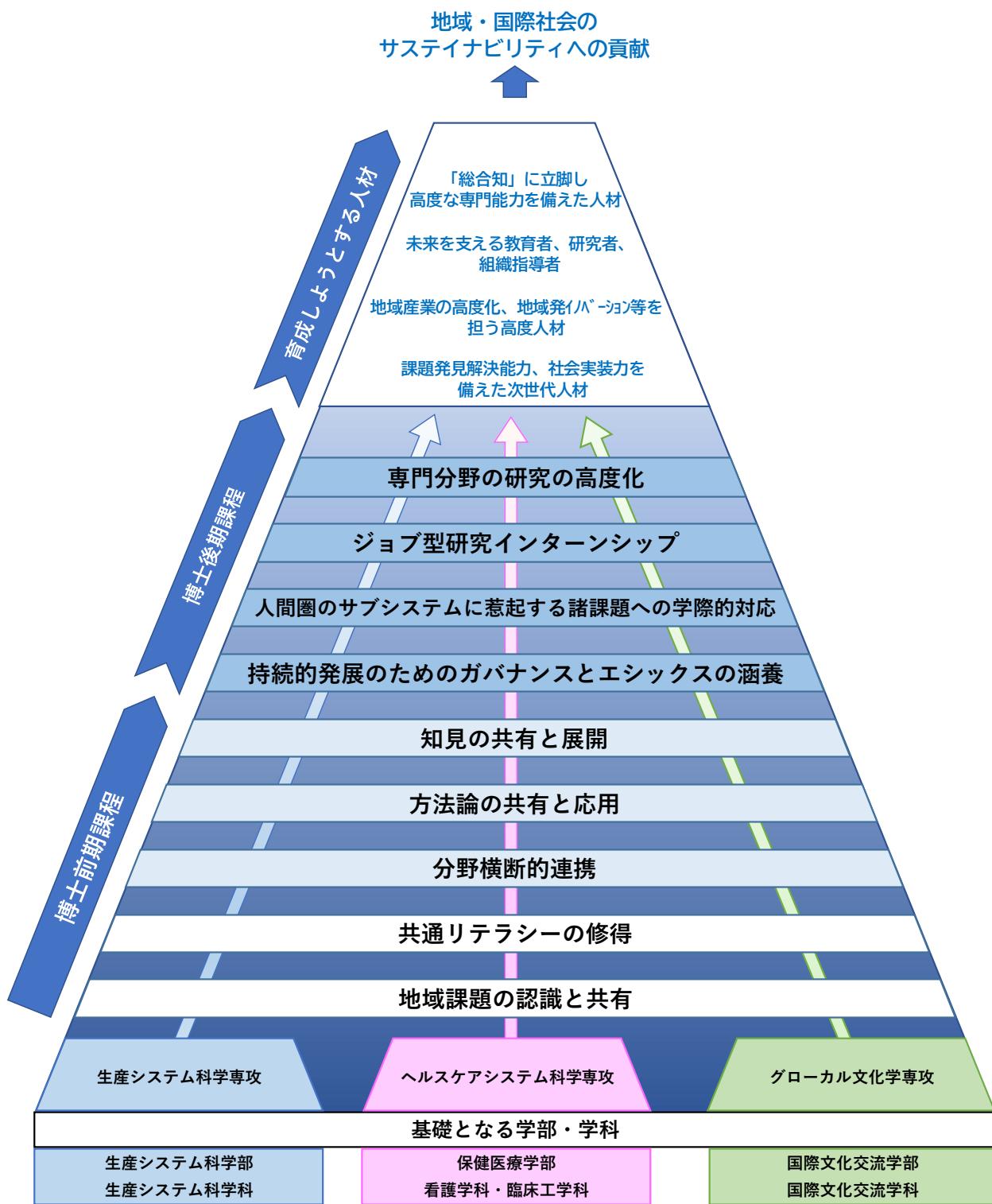
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000円	535,800円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000円 (県外) 423,000円	535,800円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000円	535,800円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町ヌ1番地3 (JR栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方

**公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）
設置に関するアンケート調査【社会人用共通対象】
【入学意向調査結果（企業等）の概要】**

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、別途実施した採用意向調査の対象企業等の従業員等を対象に、本学大学院（博士後期課程）への入学意向を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院への興味・関心
- 公立小松大学大学院への受験希望
- 公立小松大学大学院への入学希望

(4) 調査対象

石川県内を中心とする採用意向調査の対象企業等の従業員等（108企業）

(5) 調査実施時期

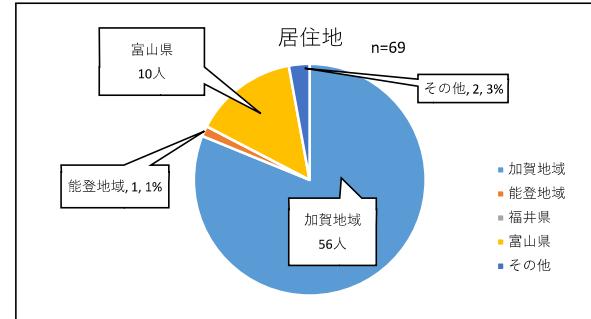
令和4年12月

(6) 回答状況

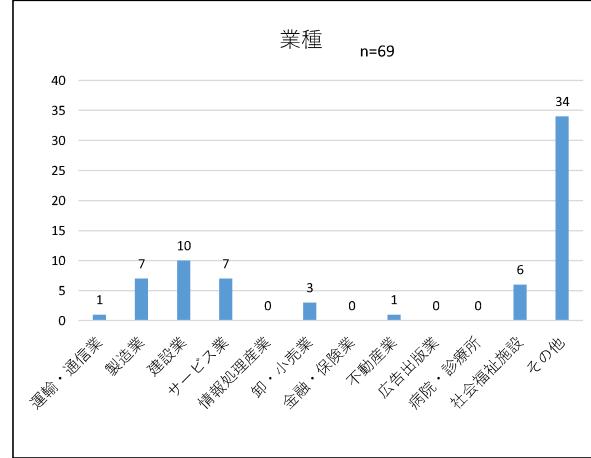
69人（回答率：64%）

1. 居住地はどこですか。

加賀地域	56
能登地域	1
福井県	0
富山県	10
その他	2
【内訳】	
新潟県	2

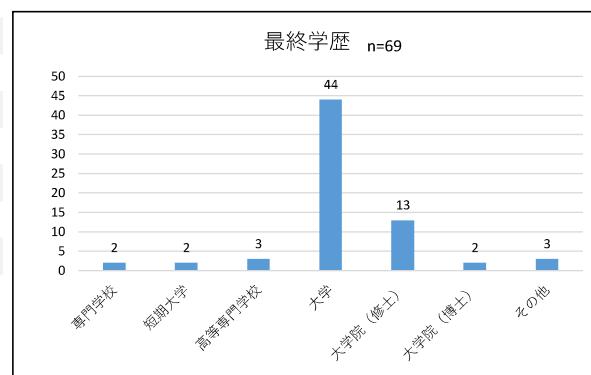
**2. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。**

運輸・通信業	1
製造業	7
建設業	10
サービス業	7
情報処理産業	0
卸・小売業	3
金融・保険業	0
不動産業	1
広告出版業	0
病院・診療所	0
社会福祉施設	6
その他	34
【内訳】	
学校教育関係、大学教員	3
公務員、地方公務員、行政、行政機関、官公庁	26
電気事業	3
各種団体・団体職員	2



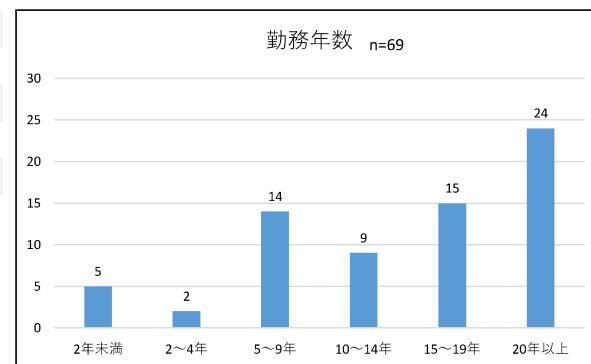
3. 最終学歴を次の中から1つ選んでください。

専門学校	2
短期大学	2
高等専門学校	3
大学	44
大学院（修士）	13
大学院（博士）	2
その他	3
【内訳】	
高等学校	3



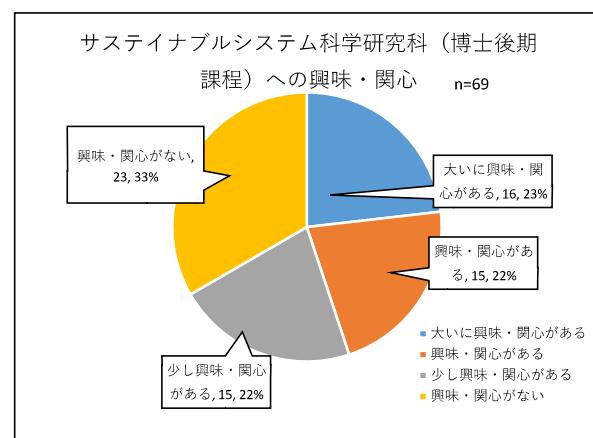
4. 勤務年数を次の中から1つ選んでください。

2年未満	5
2~4年	2
5~9年	14
10~14年	9
15~19年	15
20年以上	24



5. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

大いに興味・関心がある	16
興味・関心がある	15
少し興味・関心がある	15
興味・関心がない	23



※これ以降は、全体の回答者数69人から本学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）に「興味・関心がない」の23人を外した人数で「グローカル文化学専攻」への入学意向調査結果を表示します。

公立小松大学大学院グローカル文化学専攻（博士後期課程）

設置に関するアンケート調査【社会人用共通対象】

【入学意向調査結果（企業等）の概要】

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、別途実施した採用意向調査の対象企業等の従業員等を対象に、本学大学院（博士後期課程）グローカル文化学専攻への入学意向を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

- 公立小松大学大学院への興味・関心
- 公立小松大学大学院への受験希望
- 公立小松大学大学院への入学希望

(4) 調査対象

石川県内を中心とする採用意向調査の対象企業・商社等の従業員等（82企業）

(5) 調査実施時期

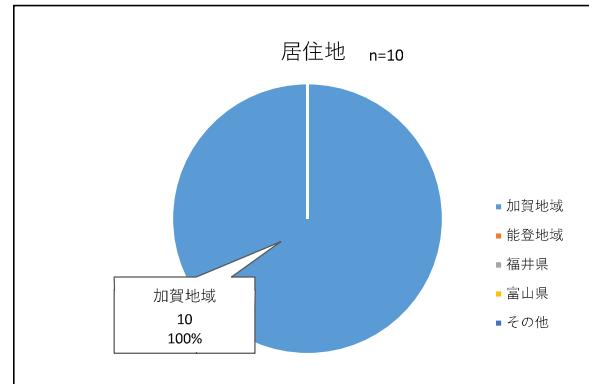
令和4年12月

(6) 回答状況

10人（回答率：12%）

1. 居住地はどこですか。

加賀地域	10
能登地域	0
福井県	0
富山県	0
その他	0

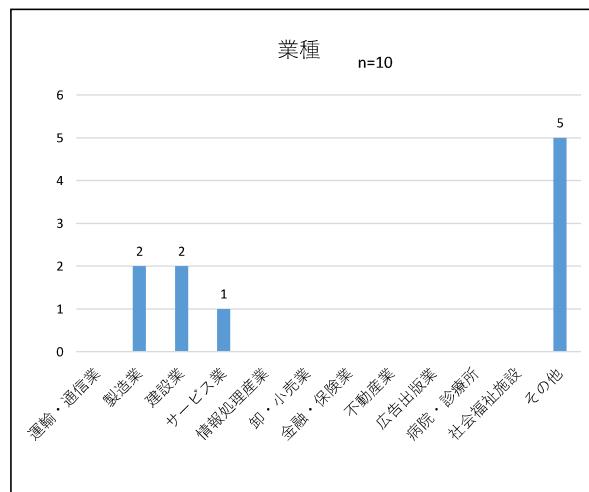


2. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。

運輸・通信業	
製造業	2
建設業	2
サービス業	1
情報処理産業	
卸・小売業	
金融・保険業	
不動産業	
広告出版業	
病院・診療所	
社会福祉施設	
その他	5

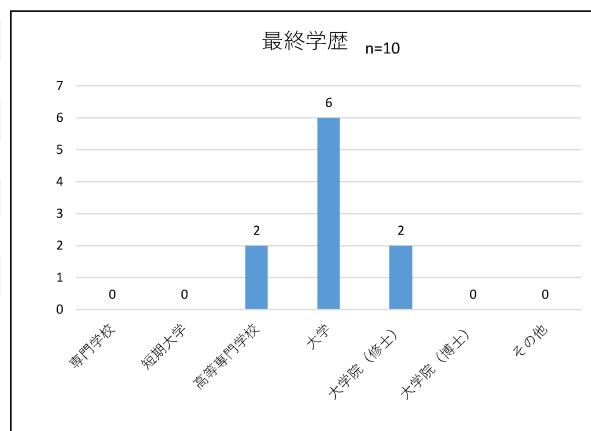
【内訳】

公務員、行政、	2
電気事業	3



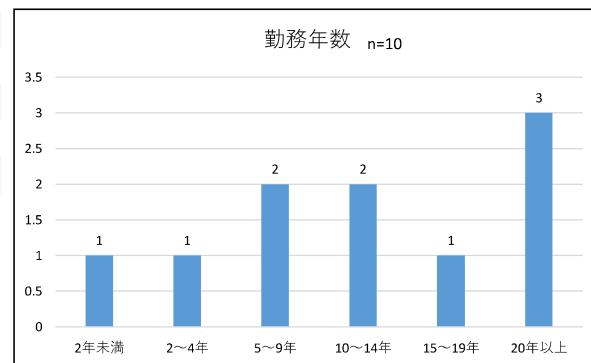
3. 最終学歴を次の中から1つ選んでください。

専門学校	0
短期大学	0
高等専門学校	2
大学	6
大学院（修士）	2
大学院（博士）	0
その他	0



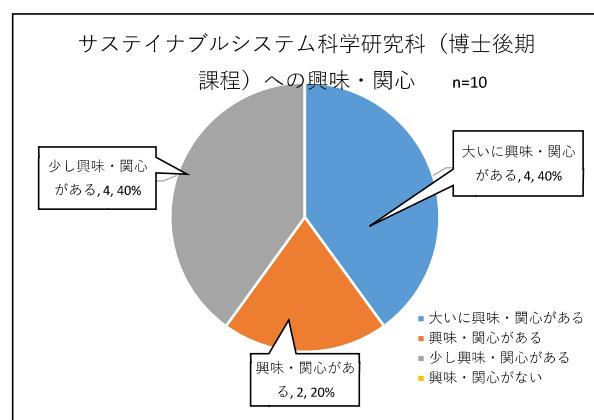
4. 勤務年数を次の中から1つ選んでください。

2年未満	1
2~4年	1
5~9年	2
10~14年	2
15~19年	1
20年以上	3



5. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)
についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

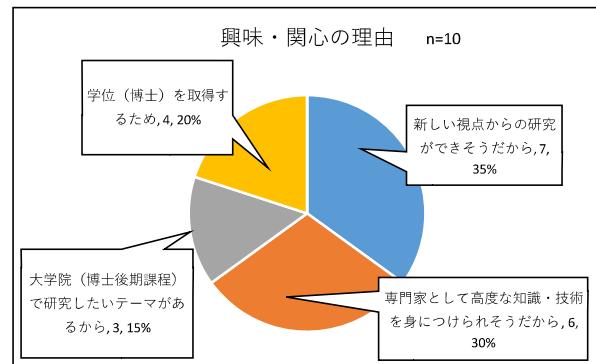
大いに興味・関心がある	4
興味・関心がある	2
少し興味・関心がある	4
興味・関心がない	0



6. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。

それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。

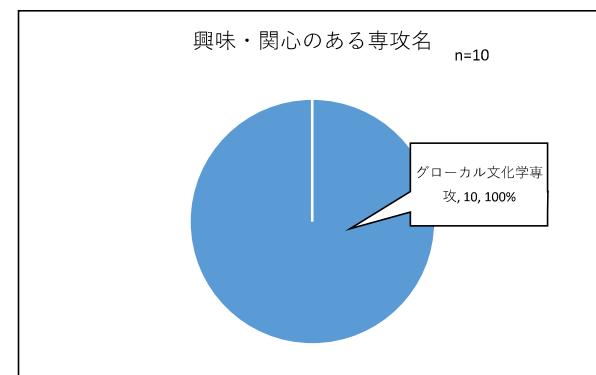
新しい視点からの研究ができそうだから	7
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	6
大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから	3
学位（博士）を取得するため	4
その他	0



7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ね

します。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。

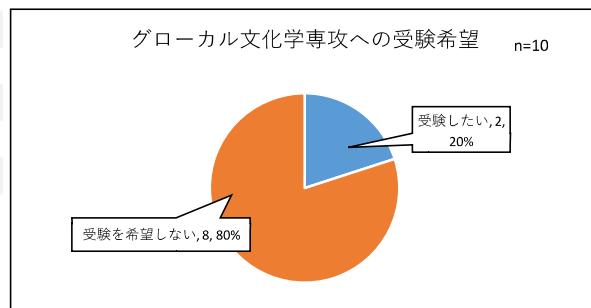
グローカル文化学専攻	10



8. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。

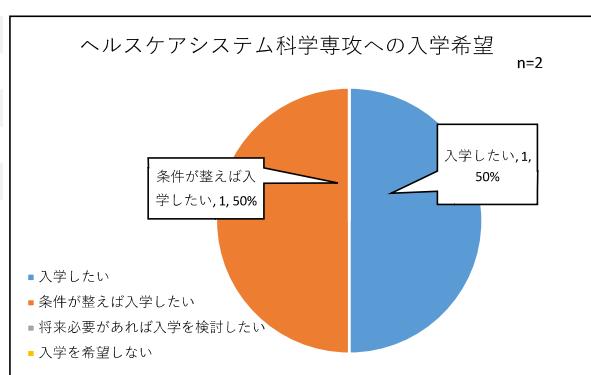
次の中から1つ選んでください。

受験したい	2
受験を希望しない	8



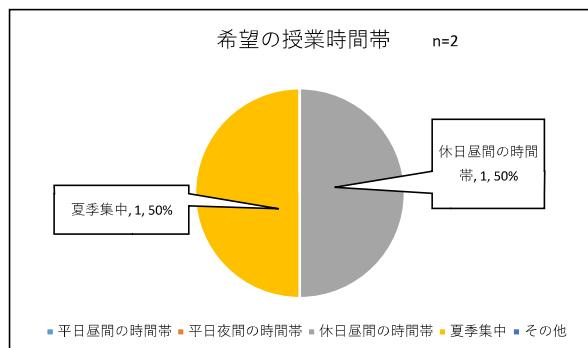
9. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。

入学したい	1
条件が整えば入学したい	1
将来必要があれば入学を検討したい	0
入学を希望しない	0



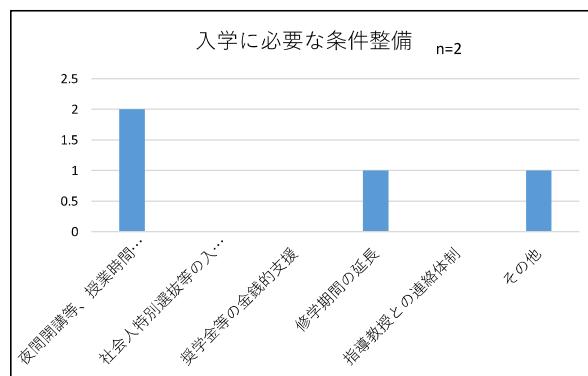
10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。

平日昼間の時間帯	0
平日夜間の時間帯	0
休日昼間の時間帯	1
夏季集中	1
その他	0



11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	2
社会人特別選抜等の入学試験	
奨学金等の金銭的支援	
修学期間の延長	1
指導教授との連絡体制	
その他	1
【内訳】	
オンライン対応	1



12. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 在職のまま学位を取得することを考えると3年では短いと考えられ、就学期間の延長措置が整備されることが望ましい。
また、一部の大学においては、博士課程での単位取得満期退学の後、一定の期間内において学位論文の提出を認め、審査を受けて認められた者を「課程博士」として取り扱う事例もあることから、貴学においてもご検討いただきたい。この考え方是在職中の者だけではなく、子育て中の者に対しても研究や学位の授与の機会を広げるものであり、今後の社会において必要なシステムであると考える。

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院
サステイナブルシステム科学研究科
研究科長 木村 繁男

大学院（博士後期課程）入学意向に関するアンケート調査に係る依頼文の配付について（依頼）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

なお、本アンケートは同封した「「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査」とは別の調査になります。両方とも御回答いただくよう、お願ひ申し上げます。

記

1 調査対象

本アンケートの対象は貴所属の従業員になります。従業員5名程度の方々に、別添の依頼文をお渡しいただきますようお願い申し上げます。（回答者の職位、勤続年数等は問いません）

2 御回答方法

別添依頼文に記載の方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答いただきます。

3 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立小松大学
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
TEL : 0761-41-6700（代表）FAX : 0761-44-3506
URL : <https://www.komatsu-u.ac.jp/>

令和4年11月30日

従業員様

公立小松大学大学院
サステイナブルシステム科学研究科
研究科長 木村 繁男

大学院（博士後期課程）入学意向に関するアンケート調査について（依頼）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようよろしくお願ひ申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

記

1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。
（御回答をお願いするフォーム：（社会人用共通）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置に関するアンケート調査）

① URL を入力し、アクセス

<https://forms.office.com/r/6LfpPN8kz>

② QR コードからアクセス



2 御回答期限 令和4年12月9日（水）

<担当> 公立小松大学
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
TEL : 0761-41-6700 (代表) FAX : 0761-44-3506
URL : <https://www.komatsu-u.ac.jp/>

(社会人用共通) 公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置に関するアンケート調査

2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。

...

* 必須

基本情報

1. 居住地はどこですか。 *

- 加賀地域（小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町）
- 能登地域（羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
- 福井県
- 富山県
- その他

2. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。 * 

- 運輸・通信業
- 製造業
- 建設業
- サービス業
- 情報処理産業
- 卸・小売業
- 金融・保険業
- 不動産業

- 広告出版業
- 病院・診療所
- 社会福祉施設
- その他

3. 最終学歴を次の中から 1つ選んでください。 * 

- 専門学校
- 短期大学
- 高等専門学校
- 大学
- 大学院（修士）
- 大学院（博士）
- その他

4. 勤務年数を次の中から 1つ選んでください。 *

- 2年未満
- 2～4年
- 5～9年
- 10～14年
- 15～19年
- 20年以上

* 必須

設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム 科学研究所（博士後期課程）」についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究所（博士後期課程）設置構想リーフレットをご覧の上、ご回答ください。
URL : https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf

5. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究所
（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 大いに興味・関心がある
- 興味・関心がある
- 少し興味・関心がある
- 興味・関心はない

6. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方
にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。*

2個のオプションを選択してください。

- 新しい視点からの研究ができそうだから
- 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- 学位（博士）を取得するため
- その他

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それはいずれの専攻ですか。次の中から1つ選んでください。*

- 生産システム科学専攻
- ヘルスケアシステム科学専攻
- グローカル文化学専攻

8. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「グローカル文化学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 受験したい
- 受験を希望しない

9. グローカル文化学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から1つ選んでください。*

- 入学したい
- 条件が整えば入学したい
- 将来必要があれば入学を検討したい
- 入学を希望しない

10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から1つ選んでください。*

- 平日昼間の時間帯
- 平日夜間の時間帯
- 休日昼間の時間帯
- 夏季集中
- その他

11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次のの中から2つまで選んでください。* 

2個のオプションを選択してください。

- 夜間開講等、授業時間帯の工夫
- 社会人特別選抜等の入学試験
- 奨学金等の金銭的支援
- 修学期間の延長
- 指導教授との連絡体制
- その他

12. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る

送信

(仮称) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローカル文化学専攻

令和6年(2024年)4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

●概要

設置年月：令和6年(2024年)4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町又1番地3(本部)

名 称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻(博士後期課程)

ヘルスケアシステム科学専攻(博士後期課程) グローカル文化学専攻(博士後期課程)

修業年限：3年 入学時期：4月

定 員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローカル文化学専攻 1名

学 位：博士(工学)、博士(保健学)、博士(国際文化学)

●設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

●養成する人材像

「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

●教育研究の特色

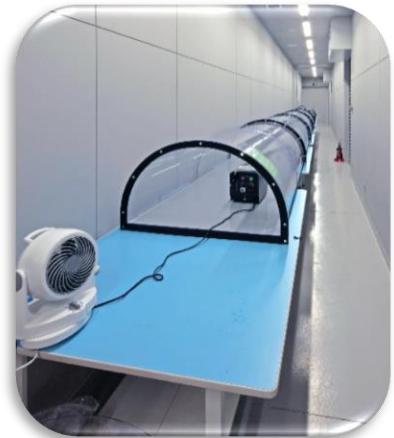
①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。

②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジ特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」

③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕

①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しつつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案していく高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。

②「コミュニティヘルスケア概論A」「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」

③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード＆ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ(MR)、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通、製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。(長期履修学生制度)
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。(昼夜開講制)

●学生納付金（予定）

入学料：(市内者) 282,000 円、(その他) 423,000 円 授業料：(年間) 585,800 円
※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

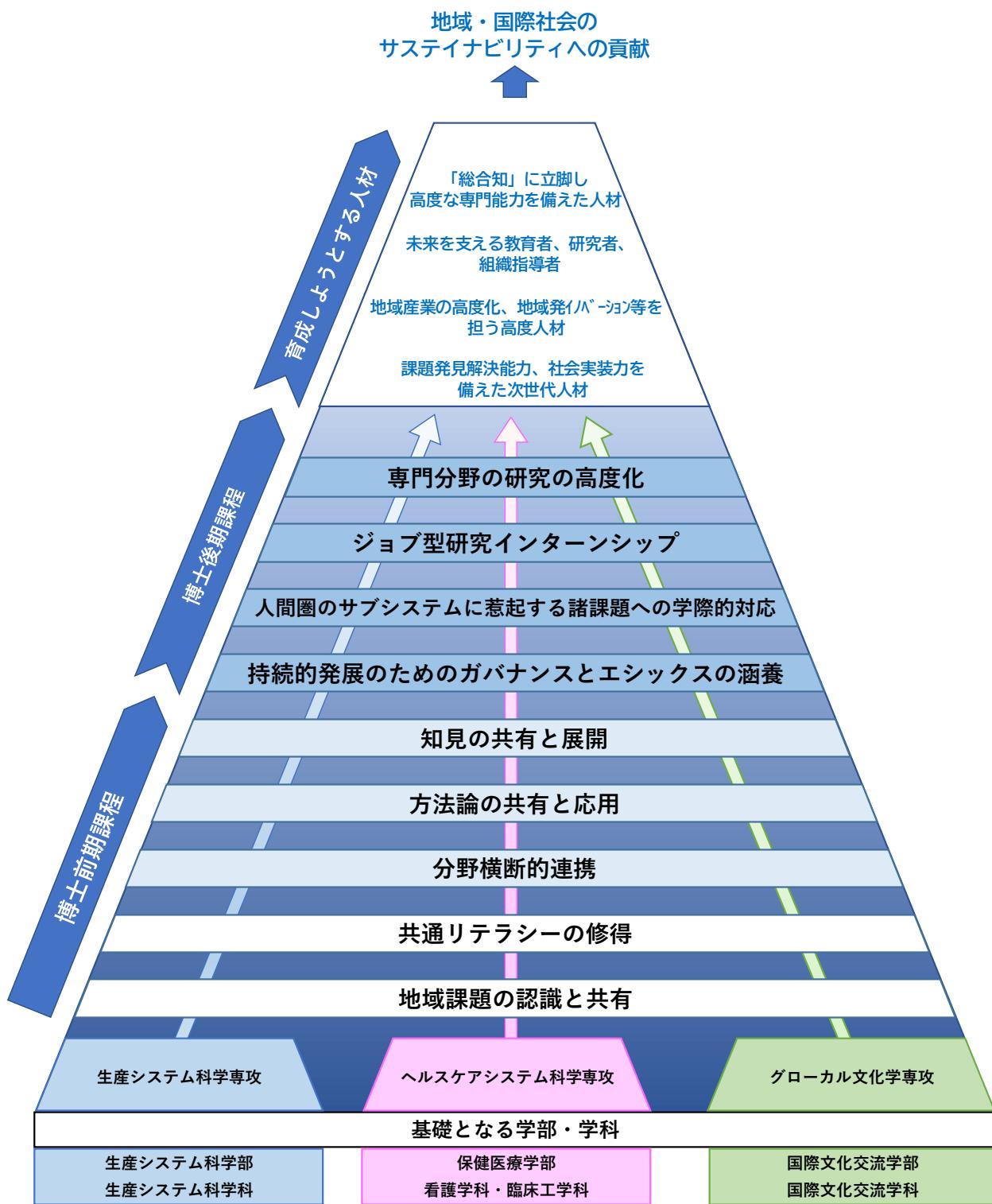
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内) 282,000 円 (県外) 423,000 円	535,800 円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町ヌ1番地3 (JR栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方

公立小松大学大学院設置構想に係るアンケート
【入学意向調査結果（海外協定校及び共同研究関連校等）の概要】

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

「「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、本学協定校及び、共同研究関連校を対象に、
本学大学院（博士後期課程）グローバル文化学専攻への進学意向を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

○公立小松大学大学院への入学候補者の推定数

(4) 調査対象

海外協定校及び共同研究関連校等

(5) 調査実施時期

令和4年12月

(6) 回答状況

3校

大学名	対応する専攻	入学候補者 推定数	自由欄
Universiti Tunku Abdul Rahman (トゥンクアブドゥルラーマン大学) 地域：マレーシア 【大学間交流協定】	グローバル文化学専攻	2	興味・関心のある学生がいれば、公立小松大学博士課程の受験を薦めたいと思います
National Central University (国立中央大学) 地域：台湾 【部局間交流協定】	グローバル文化学専攻	1	入学希望人数はあくまで目安であり、約束されたものではありません。
Austin Peay State University (オースティン・ピー州立大学) 地域：アメリカ 【大学間交流協定】	グローバル文化学専攻	0.5 (※2年に1人 入学)	現在、本学の博士課程は心理学と教育学のみです。 修士課程の学士も含め2年で1名を希望いたします。

Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu
923-0921, JAPAN
Phone: +81-761-23-6600
FAX: +81-761-48-3248



Name of institution: _____

Nation: _____

Name and position of a person in charge: _____

A putative number of candidate students: _____ per _____ year(s)

Comment: _____

Date: _____

Signature: _____

Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu
923-0921, JAPAN
Phone: +81-761-23-6600
FAX: +81-761-48-3248



December @ 2022

Dear Professor @@@@®,

On behalf of Komatsu University, I am writing to you as the person in charge of exchanges between our two institutions.

Komatsu University is planning to open the Graduate School of Sustainable Systems Science (Doctoral Program) in April 2024. We have already opened the Graduate School of Sustainable Systems Science (master's program), the Division of Production Systems Science, the Division of Health Sciences, and the Division of Glocal Cultures in April 2022, starting with a two-year master's program, which will be followed by a three-year doctoral program. The basic philosophy of the Graduate School is "to provide students with the specialized knowledge and advanced skills necessary to contribute to the realization of a sustainable society in the fields of technology, health, and culture. Through the creation of new values that promise the well-being of a future society that inherits industry, welfare, and culture, the goal is to enable all people on earth to lead healthy and happy lives.

Each field is open to new graduates, professionals, and practitioners, both domestic and international, who, through sincere advice and cooperation with leading scholars and researchers, aim to develop their innovative and academic potential and achieve all-round results.

Accordingly, I would be very much obliged for it if you could suggest a putative number of candidates per year or a few years, who would positively consider to study abroad here at the Graduate School(Doctoral Program), Komatsu University. Attached you will find a form which you may use to enter the putative student number. In addition, I like to inform you that dormitories are available and that tuition fee exemption and scholarships are planned.

I thank you for your consideration and look forward to hearing from you soon.

Sincerely yours,

@@@@ @@@@®, Ph.D.

Professor

Faculty of @@@@®

Komatsu University

Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu
923-0921, JAPAN
Phone: +81-761-23-6600
FAX: +81-761-48-3248



Name of institution : Universiti Tunku Abdul Rahman

Nation : Malaysia

Name and position of a person in charge: Ms Ally Chin

Position : Senior Assistant Manager, Division of Community and International Networking

A putative number of candidate students: 2 per year(s)

Comment : The number is just a suggestive number, UTAR would recommend its students if there's a chance.

Date: 19-12-2022

Signature:

A handwritten signature in black ink, appearing to read "My".

Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu
923-0921, JAPAN
Phone: +81-761-23-6600
FAX: +81-761-48-3248



Name of institution: National Central University

Nation: Taiwan

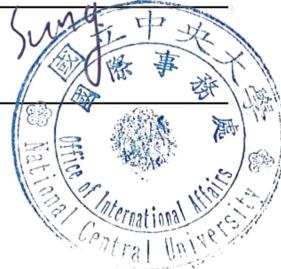
Name and position of a person in charge: Sharon Sung, Program Director of Office of International Affairs

A putative number of candidate students: 1 per 1 year(s)

Comment: The above number is only putative, not promised.

Date: DEC.12.2022

Signature: Sharon Sung



Komatsu University

10-10 Doihara-machi, Komatsu
923-0921, JAPAN
Phone: +81-761-23-6600
FAX: +81-761-48-3248



Name of institution: Austin Peay State University
Nation: U.S.A.

Name and position of a person in charge: Dr. Tatsushi Hirano
Professor, Department of Social Work

A putative number of candidate students: 1 per 2 year(s)

Comment: 現在、本学の博士課程は心理学と
教育学の2つです。修士課程の学生を
含め2年で1名を希望いたします。

Date: 12-30-2022

Signature: Tatsushi Hirano

Dr. Tatsushi Hirano
宍野達

**公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート（グローカル文化学専攻）
【採用意向調査結果（事業所）の概要】**

1 調査概要

(1) 調査主体

公立大学法人公立小松大学

(2) 調査目的

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、商社等を対象に、本学大学院（博士後期課程）設置の必要性や修了生の採用意向等を把握することを目的とする。

(3) 主要調査項目

○企業・施設における人材（修了生）の必要性

○公立小松大学大学院の修了生（博士号取得者）の採用意向

(4) 調査対象

県内商社等（82社）

(5) 調査実施時期

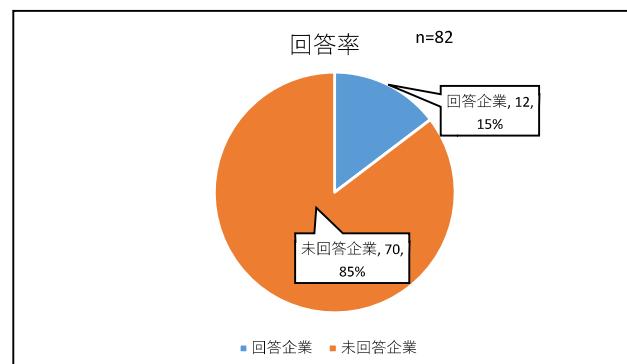
令和4年12月

(6) 回答状況

12団体（15%）

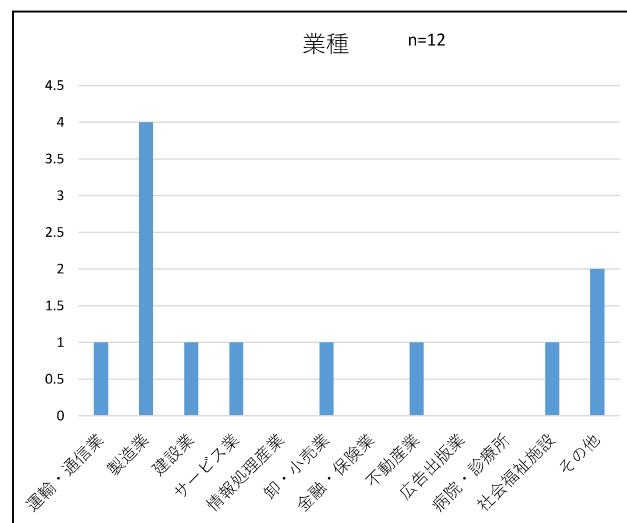
公立小松大学大学院（博士後期課程）設置構想に係るアンケート【グローカル文化学専攻対象】

アンケート対象企業数	82
回答企業	12
未回答企業	70



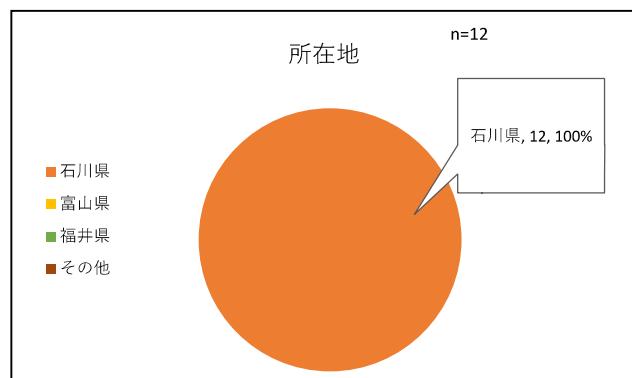
1.業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。

運輸・通信業	1
製造業	4
建設業	1
サービス業	1
情報処理産業	0
卸・小売業	1
金融・保険業	0
不動産業	1
広告出版業	0
病院・診療所	0
社会福祉施設	1
その他	2
【内訳】	
放送業、商工会議所	2



2. 所在地はどこですか。次の中から1つ選んでください。

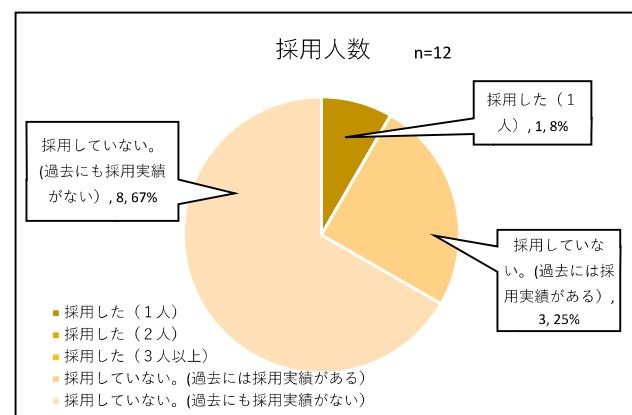
石川県	12
富山県	0
福井県	0
その他	0



3. 今年度（令和4年4月入社）に大学院（博士後期課程）修了の人材を何人程度採用されましたか。

その人数について、1つ選んでください。

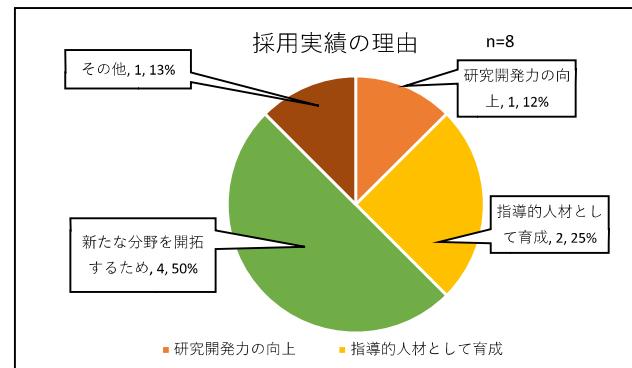
採用した（1人）	1
採用した（2人）	0
採用した（3人以上）	0
採用していない。（過去には採用実績がある）	3
採用していない。（過去にも採用実績がない）	8



4. 大学院（博士後期課程）修了の人材を採用した実績があると回答された企業にお尋ねします。

その理由は何ですか。次の中から2つ選んでください。

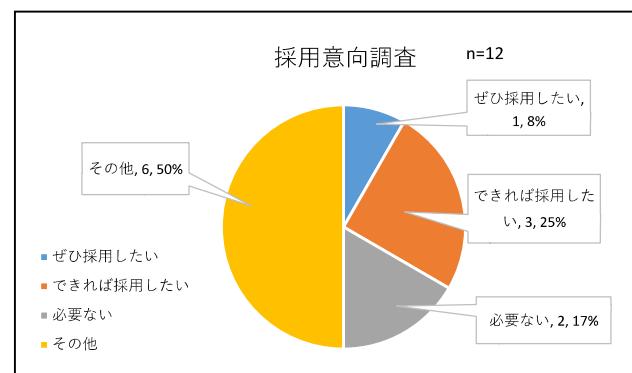
研究開発力の向上	1
指導的人材として育成	2
新たな分野を開拓するため	4
その他	1
【内訳】	
人事部でないため分かりません。	1



5. 今後の大学院（博士後期課程）修了の人材採用について、どのようにお考えですか。

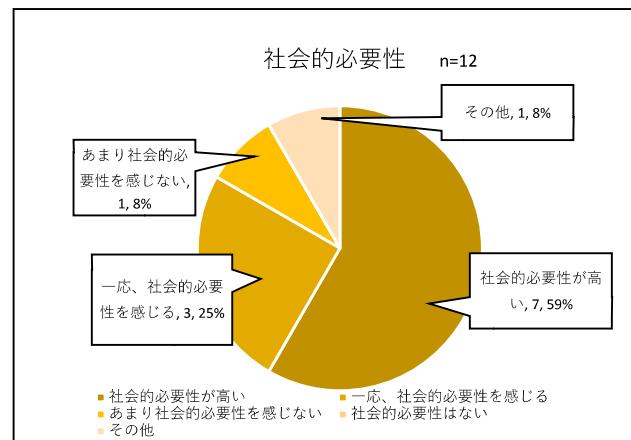
次の中から最もお考えに近いものを1つ選んでください。

ぜひ採用したい	1
できれば採用したい	3
必要ない	2
その他	6
【内訳】	
人物によって	1
弊社に必要な人材と判断すれば採用します。	1
いい人材であれば採用を検討	1
人材による	1
人事部でないため、分かりません。申し訳ありません。	1
人材次第	1



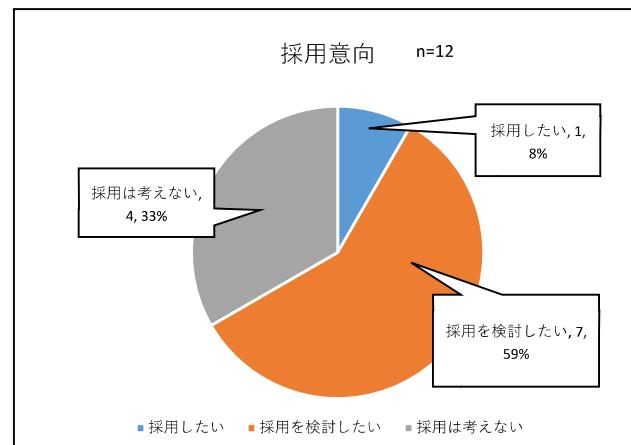
6. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から1つ選んでください。

社会的必要性が高い	7
一応、社会的必要性を感じる	3
あまり社会的必要性を感じない	1
社会的必要性はない	0
その他	1
【内訳】	
専攻内容の理解が不十分なので判断できないです。	1



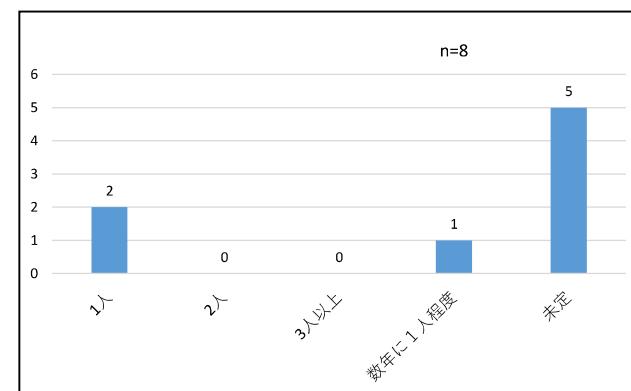
7. 貴社・貴施設では、設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」の修了生（博士号取得者）の採用を考えますか。次の中から1つ選んでください。

採用したい	1
採用を検討したい	7
採用は考えない	4



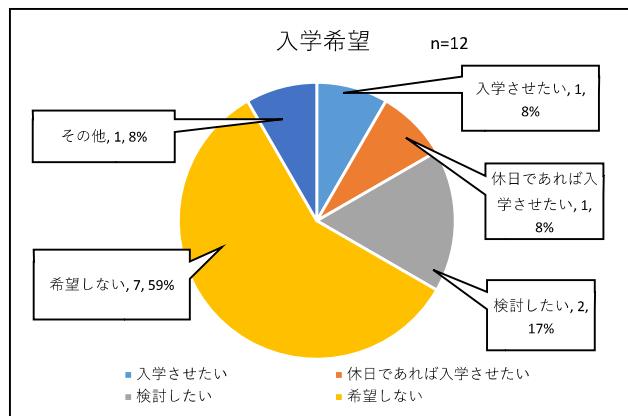
8. 「採用したい」「採用を検討したい」と回答された企業にお尋ねします。採用を検討される場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。次の中から1つ選んでください。

1人	2
2人	0
3人以上	0
数年に1人程度	1
未定	5
【その他意見】	



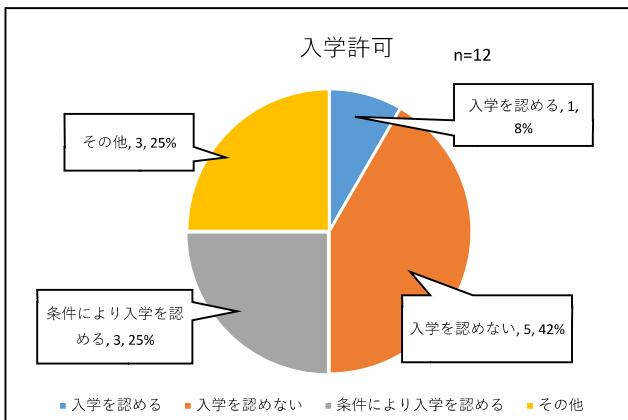
9. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」に、貴社・貴施設で働く方の入学を希望しますか。次の中から1つ選んでください。

入学させたい	1
休日であれば入学させたい	1
検討したい	2
希望しない	7
その他	1
【内訳】	
専攻内容の理解が不十分なので判断できないです。	1



10. 貴社・貴施設では、仮に従業員の方から設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」で在職のまま学びたいと申し出があった場合、入学を承認しますか。次の中から1つお選びください。

入学を認める	1
入学を認めない	5
条件により入学を認める	3
その他	3
【内訳】	
検討していない	1
カリキュラム及び開講時間により検討する	1
検討する	1



11. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院
サステイナブルシステム科学研究科
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

記

1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。

（御回答をお願いする専攻：グローカル文化学専攻）

① URL を入力し、アクセス

<https://forms.office.com/r/9Kvt2XAJnV>

② QR コードからアクセス



2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
TEL : 0761-41-6700 (代表) FAX : 0761-44-3506
URL : <https://www.komatsu-u.ac.jp/>

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院
サステイナブルシステム科学研究所
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

記

1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。

（御回答をお願いする専攻：生産システム科学専攻・ヘルスケアシステム科学専攻・グローバル文化学専攻）

① URL を入力し、アクセス

生産システム科学専攻：<https://forms.office.com/r/7YvFrV7yG7>

ヘルスケアシステム科学専攻：<https://forms.office.com/r/dVa9WvFZ4L>

グローバル文化学専攻：<https://forms.office.com/r/9Kvt2XAJnV>

③ QR コードからアクセス



生産システム科学専攻



ヘルスケアシステム科学専攻



グローバル文化学専攻

2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
TEL : 0761-41-6700 (代表) FAX : 0761-44-3506
URL : <https://www.komatsu-u.ac.jp/>
—学生確保(資料)—65—

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院
サステイナブルシステム科学研究科
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

記

1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。

（御回答をお願いする専攻：生産システム科学専攻・グローカル文化学専攻）

① URL を入力し、アクセス

生産システム科学専攻：<https://forms.office.com/r/7YvFrV7yG7>

グローカル文化学専攻：<https://forms.office.com/r/9Kvt2XAJnV>

② QR コードからアクセス



生産システム科学専攻



グローカル文化学専攻

2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
TEL : 0761-41-6700 (代表) FAX : 0761-44-3506
URL : <https://www.komatsu-u.ac.jp/>
—学生確保(資料)—66—

令和4年11月30日

各位（事業所、病院、施設等）

公立小松大学大学院
サステイナブルシステム科学研究所
研究科長 木村 繁男

「公立小松大学大学院（博士後期課程）」設置構想に関するアンケート調査について（お願い）

平素は、格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では、令和4年4月に開設した公立小松大学大学院（修士課程）に続き、令和6年4月を目標に、公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、今後の大学院（博士後期課程）設置認可申請に向けての重要な資料とするため、本アンケート調査に御協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

記

1 御回答方法

以下のいずれかの方法により、インターネット上のアンケートフォームへアクセスし、御回答ください。

（御回答をお願いする専攻：ヘルスケアシステム科学専攻・グローカル文化学専攻）

① URL を入力し、アクセス

ヘルスケアシステム科学専攻：<https://forms.office.com/r/dVa9WvFZ4L>

グローカル文化学専攻 : <https://forms.office.com/r/9Kvt2XAJnV>

② QR コードからアクセス



ヘルスケアシステム科学専攻



グローカル文化学専攻

2 御回答期限 令和4年12月9日（金）

<担当> 公立大学法人公立小松大学大学院
学生課 学務・大学院担当 山崎、神田
〒923-8511 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
TEL : 0761-41-6700 (代表) FAX : 0761-44-3506
URL : <https://www.komatsu-u.ac.jp/>
—学生確保(資料)-67—

公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究所（博士後期課程）設置構想に関するアンケート調査（グローカル文化学専攻）

公立小松大学大学院（博士後期課程）サステイナブルシステム科学研究所グローカル文化学専攻設置構想にあたり、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。

...

* 必須

貴社・貴施設についてお尋ねします。

1. 業種はどれに該当しますか。次の中から1つ選んでください。*

- 運輸・通信業
- 製造業
- 建設業
- サービス業
- 情報処理産業
- 卸・小売業
- 金融・保険業
- 不動産業
- 広告出版業
- 病院・診療所
- 社会福祉施設
- その他

2. 所在地はどこですか。次の中から1つ選んでください。* □₄₀

- 石川県
- 長野県
- 福井県
- その他

3. 今年度（令和4年4月入社）に大学院（博士後期課程）修了の人材を何人程度採用されましたか。その人数について、1つ選んでください。*

- 採用した（1人）
- 採用した（2人）
- 採用した（3人以上）
- 採用していない。(過去には採用実績がある)
- 採用していない。(過去にも採用実績がない)

次へ

4. 大学院（博士後期課程）修了の人材を採用した実績があると回答された企業にお尋ねします。
その理由は何ですか。次の中から2つ選んでください。*

2個のオプションを選択してください。

- 研究開発力の向上
- 指導的人材として育成
- 新たな分野を開拓するため
- その他

5. 今後の大学院（博士後期課程）修了の人材採用について、どのようにお考えですか。
次のの中から最もお考えに近いものを1つ選んでください。*

- ぜひ採用したい
- できれば採用したい
- 必要ない
- その他

次へ

公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想に関するアンケート
調査（グローカル文化学専攻）

…

* 必須

設置計画中の「公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」についてお尋ねします。

以下のサステナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想リーフレットをご覧の上、ご回答ください。

URL : https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf

6. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科グローカル文化学専攻（博士後期課程）」の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次のの中から1つ選んでください。*

- 社会的必要性が高い
- 一応、社会的必要性を感じる
- あまり社会的必要性を感じない
- 社会的必要性はない
- その他

7. 貴社・貴施設では、設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローバル文化学専攻（博士後期課程）」の修了生（博士号取得者）の採用を考えますか。次の
中から 1 つ選んでください。* □₄

- 採用したい
- 採用を検討したい
- 採用は考えない

8. 「採用したい」「採用を検討したい」と回答された企業にお尋ねします。採用を検討される場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。次のの中から 1 つ選んでください。* □₄

- 1人
- 2人
- 3人以上
- 数年に1人程度
- 未定

9. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科グローバル文化学専攻（博士後期課程）」に、貴社・貴施設で働く方の入学を希望しますか。次のの中から 1 つ選んでください。* □₄

- 入学させたい
- 休日であれば入学させたい
- 検討したい
- 希望しない
- その他

10. 貴社・貴施設では、仮に従業員の方から設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究所グローカル文化学専攻（博士後期課程）」で在職のまま学びたいと申し出があった場合、入学を承認しますか。次の中から1つお選びください。*

- 入学を認める
- 入学を認めない
- 条件により入学を認める
- その他

11. 設置計画中の「公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究所グローカル文化学専攻（博士後期課程）」について、ご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

回答を入力してください

戻る

送信

大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット

(仮称) 公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科(博士後期課程)

・生産システム科学専攻 ・ヘルスケアシステム科学専攻 ・グローカル文化学専攻

令和6年(2024年)4月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

●概要

設置年月：令和6年(2024年)4月予定

設置場所：石川県小松市四丁町又1番地3(本部)

名 称：サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻(博士後期課程)

ヘルスケアシステム科学専攻(博士後期課程) グローカル文化学専攻(博士後期課程)

修業年限：3年 入学時期：4月

定 員：生産システム科学専攻 2名、ヘルスケアシステム科学専攻 1名、グローカル文化学専攻 1名

学 位：博士(工学)、博士(保健学)、博士(国際文化学)

●設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

●養成する人材像

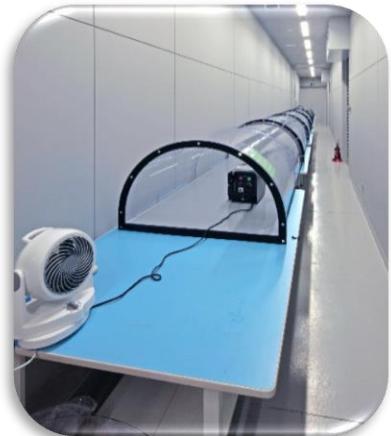
「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステナビリティへの貢献」をめざす。

●教育研究の特色

①養成する人材像 ②開講予定科目 ③想定される修了後の進路

・生産システム科学専攻〔学位：博士（工学）〕

- ①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。
- ②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジ特論」、「最適構造制御特論」、「先進IoT・AI特論」、「システム情報科学特論」
- ③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。



「トンネル火災実証実験室」

・ヘルスケアシステム科学専攻〔学位：博士（保健学）〕

- ①持続的に発展できるコミュニティヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しつつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案していく高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。
- ②「コミュニティヘルスケア概論A」、「コミュニティヘルスケア概論B」、「コミュニティヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」
- ③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ(MR)、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。



「人工心肺装置」

・グローバル文化学専攻〔学位：博士（国際文化学）〕

- ①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。
- ②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローバル文化学特論 A」、「グローバル文化学特論 B」
- ③情報産業、流通、製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。



「ティカル遺跡(グアテマラ)」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

- ・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。（長期履修学生制度）
- ・大学院設置基準第14条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。（昼夜開講制）

●学生納付金（予定）

入学料：（市内者）282,000円、（その他）423,000円 授業料：（年間）585,800円
※授業料減免・奨学金制度もあり

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000円	535,800円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000円	1,011,000円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000円	535,800円

ヘルスケアシステム科学専攻

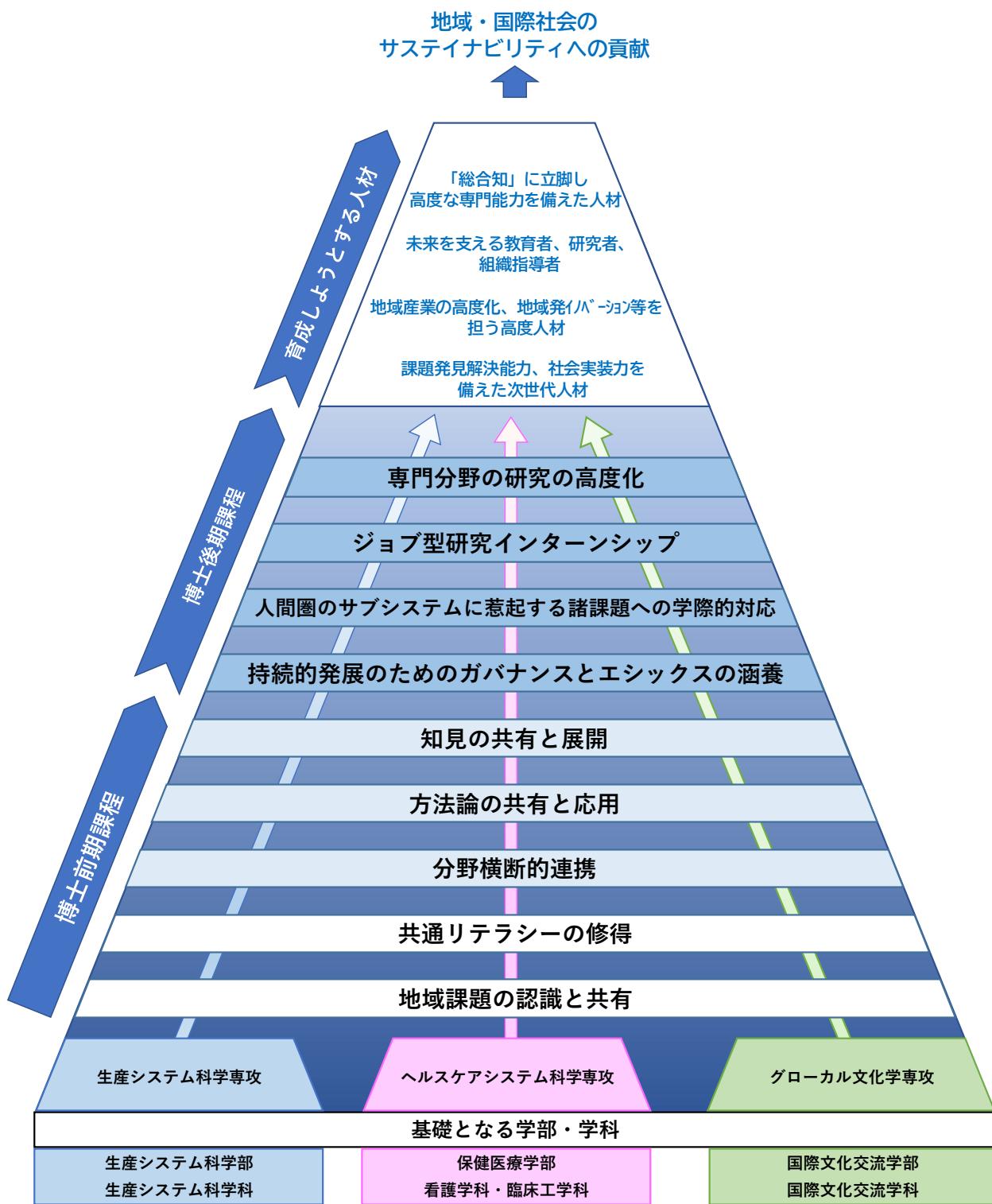
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000円	535,800円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	(県内)282,000円 (県外)423,000円	535,800円

グローバル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000円	535,800円

●設置場所（アクセス）

- ・栗津キャンパス 石川県小松市四丁町ヌ1番地3 (JR栗津駅より徒歩で約12分)
- ・末広キャンパス 石川県小松市向本折町へ14番地1 (JR小松駅より徒歩で約23分)
- ・中央キャンパス 石川県小松市土居原町10-10 (JR小松駅より徒歩で約1分)



サステイナブルシステム科学研究院における教育課程編成の考え方

石川県内に類似する分野を持つ大学院(博士後期課程)入学状況

※ 内部進学者数：内部進学者数/(博士前期課程)修了者数(人数)

※ 志願者数、受験者数、合格者数、入学者数及び内部進学者数は、4月期入学及び10月期入学を含む。

※ 定員：下段()は博士前期課程の入学定員数。

グローカル文化学専攻

県名	大学院名	専攻名	定員	人数	令和2年度 2020	令和3年度 2021	令和4年度 2022	平均値	定員充足率
石川県 1	金沢大学大学院	人間社会環境学専攻	12 (53)	志願者数	21	17	17	18.3	117%
				受験者数	20	17	17	18.0	
				合格者数	16	12	14	14.0	
				入学者数	16	12	14	14.0	
				内部進学者数	5/45	4/45	7/43	12%	

金沢大学大学院 自然科学研究科

博士後期課程の人材養成目的は、人間社会環境という多分野横断的な研究領域で活躍できる創造性豊かな大学教員、研究者、および高度専門職業人の育成です。

令和4年4月



2020（令和2）年度 外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果

1. 2020（令和2）年度外国人留学生進路状況調査

この調査は、2020年度中（2020年4月1日から2021年3月31日まで）に卒業（修了）した外国人留学生の進路状況について、調査したものである。

2. 2020（令和2）年度外国人留学生学位授与状況調査

この調査は、2020年度中（2020年4月1日から2021年3月31日まで）に我が国の大院において学位の授与があった外国人留学生の状況について、調査したものである。

注1） これらの調査でいう「外国人留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表第1に定める「留学」の在留資格により、我が国の大学（大院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大院に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生をいう。

注2） 四捨五入した数を使用している表では、内訳の数の合計が、計欄の数と一致しない場合がある。

本調査結果は、2022年1月時点の大学等からの回答に基づき集計したものです。

(内訳1)専攻区分別進路状況調査結果【大学院】

専攻区分	日本国内			出身国(地域)			日本・出身国(地域)以外			(上段:留学生数(人)／下段:構成比)		
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計
人文科学	372 22.5%	270 16.3%	388 62.3%	1,030 23.5%	157 9.5%	25 1.5%	402 24.3%	584 35.3%	7 0.4%	11 0.7%	21 1.3%	39 2.4%
社会科学	1,103 25.9%	300 7.1%	717 16.9%	2,120 49.8%	951 22.4%	27 0.6%	2,049 25.2%	21 48.2%	18 0.5%	46 0.4%	85 1.1%	85 2.0%
理学	184 21.6%	227 26.6%	93 10.9%	504 59.1%	118 13.8%	7 0.8%	194 22.7%	319 37.4%	13 1.5%	2 0.2%	15 0.2%	15 1.8%
工学	1,531 32.3%	829 17.5%	581 12.3%	2,941 62.0%	832 17.6%	50 1.1%	808 17.0%	1,690 35.7%	29 0.6%	40 0.6%	40 0.8%	40 0.8%
農学	162 17.0%	156 16.4%	114 12.0%	432 45.4%	237 24.9%	6 0.6%	234 24.6%	477 50.1%	12 1.3%	7 0.7%	7 0.7%	7 2.3%
保健	181 20.9%	132 15.2%	146 16.8%	459 52.9%	204 23.5%	10 1.2%	171 19.7%	385 44.4%	7 0.8%	3 0.3%	14 1.6%	14 2.8%
家政	11 21.2%	10 19.2%	31 19.2%	6 59.6%	0 11.5%	0 0.0%	0 28.8%	21 40.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 100.0%
教育	92 19.2%	58 12.1%	77 16.1%	227 47.5%	86 18.0%	5 1.0%	154 32.2%	245 51.3%	3 0.6%	1 0.2%	2 0.4%	2 1.3%
芸術	110 15.7%	90 12.8%	221 31.5%	421 60.1%	79 11.3%	3 0.4%	192 27.4%	274 39.1%	1 0.1%	1 0.1%	4 0.6%	4 0.9%
その他	569 23.3%	285 11.7%	435 17.8%	1,289 52.7%	377 15.4%	22 0.9%	716 29.3%	1,115 45.6%	8 0.3%	16 0.3%	40 0.7%	40 1.6%
合計	4,315 25.4%	2,357 13.9%	2,782 16.4%	9,454 55.6%	3,047 55.6%	155 17.9%	3,957 23.3%	7,159 42.1%	101 0.6%	99 0.6%	182 1.1%	182 2.2%
										小計	不明	卒業(修了) 留学生総数

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方にについて

教育未来創造会議 第一次提言

取り巻く課題

- ・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年から10年間で9%減少）
・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足）
・グリーン人材の不足
（2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする）
- ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割）
・諸外国に比べて低い理工系の入学者
(学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%)
- ・諸外国に比べない修士号取得者
（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人）
・博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人）
- ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
（諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発
(社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く)
- ・進まないリカレント教育

・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

- ◎一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウエルビーイングを実現）
- ◎ジエンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎全世代学習社会の構築

◎未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深掘り下げ、多様な人とコミュニケーションを取りながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

＜高等教育で培う資質・能力＞

リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力
◎今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・予測不可能な時代に必要な文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
- ・デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
- ・幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

→ 今後5～10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化



(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

①デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築

・大学設置に係る規制の大膽な緩和（専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設備設置経費等）

（復数年度にわたり予見可能性を持つて再編に取り組めるよう継続的な支援方策等を検討）

（教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化）

（私学助成に関する全体の構造的な見直し（定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等））

・計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底

（修学支援新制度の機関要件の厳格化（定員充足率8割以上の大学とする等））

（専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実）

（③大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進）

（④企業における人材投資に係る開示の充実）

（⑤地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進）

（⑥地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充）

（⑦地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化（半導体、蓄電池））

（専門学校や高専のニーズも踏まえた成長分野への大学等再編・統合・拡充を促進する仕組み構築）

（①デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換促進）

（②オンラインを活用した大学間連携の促進）

（③大学のDX促進）

（④オンライン技術やマイナンバーカードの活用促進）

（⑤デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進）

（⑥大学法人のガバナンス強化）

（⑦知識と知恵を得る初等中等教育の充実）

（⑧大学の運営基盤の強化）

（⑨文理横断教育の推進）

（⑩「出口での質保証」の強化）

（⑪大学院教育の強化）

（⑫「課題差見・解決能力等を育む学習の充実）

（⑬博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等）

（⑭大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成）

（⑮企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化）

（⑯企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化）

（⑰在外教育施設の教育環境整備の推進）

（⑱在外教育施設の教育環境整備の推進）

（⑲在外教育施設の教育環境整備の推進）

（⑳在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉑在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉒在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉓在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉔在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉕在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉖在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉗在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉘在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉙在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉚在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉛在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉜在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉝在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉞在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉟在外教育施設の教育環境整備の推進）

（㉟在外教育施設の教育環境整備の推進）

(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

①女性活躍プログラムの強化

・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化

・大学がバансコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進等

（②民共同修学支援プログラムの創設）

（③女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進）

（4）グローバル人材の育成・活躍推進

（①コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築）

（②産学官を挙げてのグローバル人材育成）

・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進等

（③高度外国人材の育成・活躍推進）

（④高度外国人材の子供への教育の推進）

（⑤デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換）

（⑥知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進）

（⑦オンライン教育の規制緩和特別の創設等）

（⑧オンラインを活用した大学間連携の促進）

（⑨大学のDX促進）

（⑩デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進等）

（⑪大学法人のガバナンス強化）

（⑫社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化）

・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増加、会計監査人による会計監査の制度化等

（⑬世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進）

・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立等

（⑭大学の運営基盤の強化）

（⑮知識と知恵を得る初等中等教育の充実）

（⑯大学法人のガバナンス強化）

（⑰文理横断教育の推進）

・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換等

（⑱個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進）

（⑲課題差見・解決能力等を育む学習の充実）

（⑳女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進【再掲】）

（㉑子供の貧困対策の推進）

（㉒学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進）

2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実

- (1) 学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大
・修学支援新制度の機関要件の厳格化を図りつつ、現在対象外の中間所得層について、
多子世帯や理工系・農業系の学部で学ぶ学生等への支援に適切な改善の実施
- (2) ライフイベントに応じた柔軟な返還（出世払い）の仕組みの創設
・現行の貸与型奨学金について、無利子・無利子・有利子等も含めて利用できるよう、
ライフイベント等も踏まえ、返還者の判断で柔軟に返還できる仕組みを創設
・在学中は授業料を徴収せず、卒業（修了）後の所得に応じた返還・納付を可能とする新たな制度を、
大学院段階において導入
→ これからにより大学・大学院・高専等で学ぶ者がいざれも卒業後の所得に応じて柔軟に返還できる
出世払いの仕組みを創設
- (3) 官民共同修学支援プログラムの創設【再掲】

3. 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備

- (1) 学び直し成果の適切な評価
- ①学修歴や必要とされる能力・学びの可視化等
・個人の学修歴等に係るデジタル基盤整備
・マイナポータルと連携したジブ・カードの電子化 等
- ②企業における学び直しの評価
・企業内の計画的な人材育成、スキル・学習成果重視の評価体系の導入
・通年・中途採用等の推進、社内起業・出向起業の支援等の取組の実践の促進
・従業員が大学講座等で学び直し、好成績を修めた場合における報酬や昇進等で処遇する企業
への新たな支援策の創設 等
- ③学び直し成果を活用したキャリアアップの促進
・キャリアコンサルティング・コーチングの実施、キャリアアップに向けた学び直しプランの策定と
プログラムの実施、その後の伴走支援を一気通貫で行う仕組みの創設 等
- (2) 学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備
- ①費用、時間等の問題を解決するための支援
・教育訓練給付制度の対象外である者（自営業者等）に対する支援の実施
・人材開発支援助成金制度におけるIT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に
位置付けなどによるデジタル人材育成の推進 等
- ②高卒程度認定資格取得のための学び直しの支援
③高齢世代の学び直しの促進
- (3) 女性の学び直しの支援
- ①女性の学び直しを促進するための環境整備
・地方公共団体におけるデジタルスキルの取得とスキルを生かした就労を支援するための地域の
実情に応じた取組に対する地域女性活性躍進推進交付金による支援 等
- ②女性の学び直しのためのプログラムの充実
・地域の大学・高専等における女性向けを含むデジタルリテラシー向上や管理職へのキャリアアップ等
のために実施する実践的なプログラム等への支援 等
- (4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備
- ①リカレント教育について産学官で対話、連携を促進するための場の設置
・都道府県単位で産学官関係者が協議する場の整備
・地域の人材ニーズに対応した教育訓練コースの設定、教育訓練の効果検証等の推進
・地域の産学官が連携して人材マッチング・育成等を総合的にを行う「地域の人事部」の構築
- ②企業におけるリカレント教育による人材育成の強化
・企業と大学等の共同講座設置支援
・企業におけるリカレント教育推進に向けたガイドラインの策定 等
- ③大学等におけるリカレント教育の強化
・大学における継続的なリカレント教育の実施強化を行ったためのガイドラインの策定
・リカレント教育推進に向けた組織の整備等、産業界を巻き込んだ仕組みづくりの支援 等
- ④地域におけるデジタル・グリーン分野等の人材育成
・DX等成長分野のリテラシーレベルの能力取得・リスキリングを実施するプログラムへの支援
・脱炭素化に向けた高等教育機関が地域と課題解決に取り組む中での人材育成の支援
・農業大学校等におけるスマート農林水産業のカリキュラム充実、デジタル人材育成
・IT、マーケティング、地域振興の知見・スキルを有する観光人材の育成推進 等

**我が国の未来をけん引する
大学等と社会の在り方について
(第一次提言)**

令和4年5月10日

教育未来創造会議

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について (第一次提言)

目次

はじめに	3
I. 背景	4
1. 我が国現状	4
2. 人材育成を取り巻く課題	4
(1) 高等教育の発展と少子化の進行	4
(2) デジタル人材の不足	5
(3) グリーン人材の不足	5
(4) 高等学校段階の理系離れ	5
(5) 諸外国に比べて低い理工系への入学者	6
(6) 諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者	6
(7) 世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者	7
(8) 諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発	7
(9) 進まないリカレント教育	7
II. 基本的考え方	8
1. 基本理念	8
2. 在りたい社会像	8
(1) 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ（ウェルビーイング）の実現	8
(2) ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善	8
(3) 社会課題への対応、SDGsへの貢献	8
(4) 生産性の向上と産業経済の活性化	9
(5) 全世代学習社会の構築	9
3. 目指したい人材育成の在り方	9
(1) 未来を支える人材像	9
(2) 今後特に重視する人材育成の視点	10
III. 具体的方策	11
1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化	11
(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等の再編促進と産学官連携強化	12
(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受け入れ強化	16
(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進	18

(4) グローバル人材の育成・活躍推進	19
(5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換	20
(6) 大学法人のガバナンス強化	21
(7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実	22
2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実	25
3. 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備	28
(1) 学び直し成果の適切な評価	29
(2) 学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備	30
(3) 女性の学び直しの支援	32
(4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備	34
おわりに	37

はじめに

本提言は、内閣総理大臣を議長とする教育未来創造会議において、有識者の参画の下で議論を重ね、関係省庁とも連携しながら、我が国の未来を担う大学等と社会の在り方について取りまとめたものである。我が国が置かれている現状や人材育成を取り巻く課題を踏まえ、基本理念、在りたい社会像、目指したい人材育成の在り方を整理した上で、①未来を支える人材を育む大学等の機能強化、②新たな時代に対応する学びの支援の充実、③学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備、に特に焦点を当てて、今後取り組むべき具体的方策を提示する。

今後、本提言で示した事項について、断固たる意思をもって速やかに実行に移すこととする。

い一方で、文理選択において理系を選択する割合は男子 27%に対して女子 16%にとどまるなど、その差が顕著となっている。

PISA (OECD 生徒の学習到達度調査) における保護者質問調査（2012 年）に参加した 10 の国・地域の結果では、子供に科学や技術、工学、数学などの分野の職に就いてほしいと願っている両親の期待感は、15 歳の息子と娘の数学の成績が同じ場合でも、息子に対する期待感の方が娘に対する期待感より高かったことが報告されている¹⁷。日本においても、子供の頃から「女子は理系には向いていない」など根拠のないバイアスが保護者・学校・社会からかかり、女子の理系への進路選択の可能性が狭められていることが考えられる¹⁸。

(5) 諸外国に比べて低い理工系への入学者

OECD 諸国の中で、日本は理工系（理学・工学系）に入学する者（大学学部段階）は OECD 平均より大幅に低い状況（OECD 平均 27%、日本 17%）にあり、同分野の卒業生数に係る近年の推移を見ても、2014 年から 2019 年までの 5 年間で、OECD 加盟国の多くは理工系学部の学生数を増やしている一方で我が国ではほとんど変わっていない¹⁹。

さらに、大学の学部段階で理工系を専攻する女性は 7 %にとどまっており、男性の 28% に比べると低い状況にある²⁰。また、理工系学部への進学者は同年代の女子全体のうち 3 %²¹に過ぎず、特に大学学部の女性入学者に占める理工系分野への入学者は 7 % であり、OECD 平均（15%）に比べても大幅に低い状況にある²²。

(6) 諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者

修士・博士号の取得者（2018 年度）も諸外国に比べて少なく、人口 100 万人当たりの修士号の取得者は英国 4,216 人、ドイツ 2,610 人、米国 2,550 人である一方、日本は 588 人であり、博士号取得者も英国 375 人、ドイツ 336 人、韓国 296 人（2019 年度）に比べ、日本は 120 人にとどまっている²³。

また、米国企業の経営者は 7 割程度が大学院卒であるのに対して、日本の経営者の大学院卒は 2 割弱にとどまっている²⁴。

¹⁷ OECD 「The ABC of Gender Equality in Education: Aptitude, Behaviour, Confidence」（2015 年）より。ハンガリー、ポルトガル、チリ、イタリア、クロアチア、ドイツ、メキシコ、香港、韓国、マカオが調査に参加。

¹⁸ 総合科学技術・イノベーション会議教育・人材育成ワーキンググループ「Society5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ案」（令和 4 年 4 月 22 日総合イノベーション戦略推進会議了承）

¹⁹ OECD.stat 「New entrants by field」より。「理工系」は OECD 統計上 “Natural sciences, mathematics and statistics”, “Information and Communication Technologies, “Engineering, manufacturing and construction” を指す。

²⁰ 文部科学省「学校基本統計（令和 3 年度）」

²¹ 文部科学省「学校基本統計（令和元年度、令和 3 年度）」

²² OECD.stat 「New entrants by field」

²³ 文部科学省 科学技術・学術政策研究所「科学技術指標 2021（調査資料-311）」（2021 年 8 月）

²⁴ 役員四季報や信頼できる公開情報（企業 HP など）から経済産業省が調査

(7) 世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者

日本では14%の子供が相対的に貧困の状態にあると言われている²⁵。

中学生のいる世帯のうち、収入水準が低い家庭やひとり親家庭では、生徒自身・保護者ともに、進学は高校までと考える割合が高くなり、大学以上の段階への進学希望は低下する傾向があり、進学希望を「高校まで」とする生徒のうち、収入水準が低い生徒は周囲の考え方や家庭の経済状況に左右される割合が高くなる傾向がある。さらに収入水準が低い家庭やひとり親家庭では、成績上位者の割合が低く、成績下位者の割合が高くなるほか、授業以外での勉強時間も少なくなる傾向がある²⁶。

学生の状況に目を転じれば、大学への進学率は約5割（短大、高専、専門学校も含めると約8割）²⁷であるが、世帯収入が少ないほど大学進学を希望する割合が低く、この傾向は授業料の比較的低い国公立大学においても確認できる。また、年収650万円未満の世帯は平均よりも低い²⁸。

(8) 諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発

日本企業はOJTの水準は高いものの、それ以外の人材投資（GDP比）は、諸外国と比べても低調な状況にある²⁹。また、社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は半数近くで、諸外国が2割程度を下回っていることと比較すると高い状況にある³⁰。

(9) 進まないリカレント教育

仕事関連の成人学習参加率への参加率が高い国ほど、時間当たりの労働生産性が高い傾向にある³¹。

他方で、我が国においては、時間、費用等の制約から学び直しに二の足を踏む傾向が見られ、社会人の大学・大学院入学者割合は諸外国に比べて低くなっている³²。

²⁵ OECD「Income Distribution Database」(2018)

²⁶ 内閣府「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」

²⁷ 文部科学省「学校基本統計（令和3年度）」

²⁸ 文部科学省・国立教育政策研究所「高校生の進路に関する保護者調査」(2019年12月)

²⁹ 学習院大学宮川教授による推計（厚生労働省「平成30年版労働経済の分析」に掲載）

³⁰ パーソル総合研究所「APAC就業実態・成長意識調査」(2019年8月)

³¹ OECD「Programme for the International Assessment of Adult Competencies」(2012, 2015, 2019)

³² OECD「Share of new entrants below the typical age」

<具体的取組>

①女性活躍プログラムの強化

- ・ 女子学生の占める割合の少ない分野の大学入学者選抜における女子学生枠の確保等に積極的に取り組む大学等に対して、運営費交付金や私学助成による支援を強化する。
- ・ 大学の教員等の出産・育児等のライフイベントと研究活動の両立を支援する施策を充実する。
- ・ 運営費交付金等、大学への資源配分において女性登用のインセンティブの付与を行う。
- ・ 女性管理職の登用拡大に向けた大学ガバナンスコードの見直し、学部ごとの女子学生・女性教員の在籍・登用状況などの情報開示の促進を図る。

②官民共同修学支援プログラムの創設

- ・ 2. ①の取組と併せ、理工系や農学系の分野に進学する女子学生への官民共同の修学支援プログラムを創設する。

③女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進

- ・ 幼少期からの保護者や学校、社会による理数への学びや性別役割分担にかかるジェンダーバイアスを排除し、社会的機運を醸成する。
- ・ 中学校、高等学校等への大学等の出前講座、ロールモデルに出会う機会の充実など理系選択者の増加に向けた取組を推進する。

(4) グローバル人材の育成・活躍推進

コロナ禍では我が国だけでなく世界各国において、大学間交流や学生間交流などに深刻な影響があった⁴⁵が、遠隔・オンライン教育の利点を積極的に活用しながら、外国人留学生の受け入れ及び日本人学生の送り出しの双方向の交流の再構築を行うとともに、産学官を挙げたグローバル人材の育成、高度外国人材の育成・活躍推進を図る。

さらに、海外からのより多くの高度専門人材の来日を促進することも今後の国際力強化の視点から重要であり、外国人の子供の教育環境・生活環境改善に向けて、インターナショナルスクールの誘致等を進めるとともに、国内の小・中・高等学校等での受け入れ及び教育環境の整備を推進する。

<具体的取組>

①コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築

⁴⁵ コロナ禍前においても、諸外国における海外留学生数は、特に中国・インドが伸張していた一方で日本は停滞状況にあった。

- ・ 我が国発のオンライン国際教育プラットフォームを構築するとともに、時代・社会のニーズを踏まえた国際的学生交流や大学の国際化の支援を行う。
- ・ 留学生や外国人教員・研究者のための宿舎について、複数主体が連携・協力して確保する等の取組事例の周知を図る。

②産学官を挙げてのグローバル人材育成

- ・ 高校段階からの段階に応じた海外留学支援を強化する。
- ・ 民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ！留学JAPAN」の発展的推進など、若者の海外留学促進に向けて企業、地方公共団体の参画を促進する。
- ・ 企業等における採用・人材育成面での海外留学経験の評価を促進する。

③高度外国人材の育成・活躍推進

- ・ 大学等における外国人留学生の就職・起業支援の強化を図る。
- ・ アジア諸国の高度人材について日本企業及び日系企業への就職機会の提供支援（アジア未来投資イニシアティブ）の強化を図る。
- ・ 優秀な高度外国人材の採用に向けた企業文化の改革を促進する。
- ・ 地域の地方公共団体・大学・経済団体・地場企業等から構成されたコンソーシアムを形成するなど、外国人留学生の就職・定着・起業の支援に向けた連携を強化する。
- ・ 日本企業における高度外国人材の採用、各種手続、活躍までの継続的な支援を行う。

④高度外国人材の子供への教育の推進

- ・ 海外のボーディングスクール（寄宿制学校）をはじめとするインターナショナルスクール誘致等を推進する。
- ・ 外国人の子供の就学を支援するとともに、学校での日本語指導体制の構築など、教育環境の整備を推進する。

(5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

グローバル化への対応を進めるとともに、同大学での異なるキャンパス間での連携や、それぞれの大学の強みを生かした国内外との大学間連携、さらには時間や場所に制約されずに学ぶことができるリカレント教育をより一層推進するため、デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育を進める。

一方、特に若年層の教育に際しては、課題解決型やアクティブラーニングなど、人が直接対面し、対話をすることを経験することにも留意する。